小矢部市埋蔵文化財調査報告書第66冊

富山県小矢部市

石名田木舟遺跡発掘調査報告書

－ほ場整備（経営体育成基盤整備事業）地崎地区に伴う埋蔵文化財調査－

２０１０年３月

小矢部市教育委員会

序

小矢部市は、清流小矢部川や緑深い山々に恵まれた、自然豊かな土地です。この恵み豊かな地には、富山が「越の国」と呼ばれるころに西の入り口として、人が行き交う道や町がつくられました。わたしたちの小矢部市は、このように交通の要衝として発展してきた町です。

石名田木舟遺跡は、能越自動車道の建設に伴う分布調査においてその存在が確認されたもので、隣接する高岡市福岡町に位置する富山県指定史跡「木舟城跡」を中心に発展した、広範囲にひろがる遺跡です。

本書は、ほ場整備（経営体育成基盤整備事業）地崎地区に伴い、平成21年度に実施した、石名田木舟遺跡の発掘調査成果について報告するものです。この地区の調査では限られた面積の中ではありましたが、奈良～平安時代および中世の遺構を発見し、当時の人々の生活の一端が明らかとなりました。なかでも、中世期の石組み井戸は、数百年後の現在でも滾々と水が湧いており、当地が有数の湧水地帯であることを改めて認識させられました。

この発掘成果が、今後の研究の参考となり、埋蔵文化財に対する理解並びに保護の一助となれば幸いです。

終わりに、発掘調査から報告書刊行に至るまで格別のご指導とご協力をいただきました富山県高岡農林振興センターをはじめ、地崎地区の皆様や関係各位の方々に心から感謝申し上げます。

平成22年3月

小矢部市教育委員会
教育長　日光　久悦

例　言

1．本書は、富山県小矢部市地崎地区に所在する石名田木舟遺跡で実施した発掘調査の発掘調査報告書である。

2．この調査は、ほ場整備（経営体育成基盤整備事業）に伴うもので、小矢部市教育委員会が富山県高岡農林振興センターより委託を受けて実施した。

3．調査年度、調査地区名、発掘面積、調査期間は次のとおりである。

2009（平成21）年度　全面調査680㎡、現地調査は平成21年6月10日～平成21年8月19日、整理作業は平成21年8月20日～平成22年3月18日

4．調査主体は小矢部市教育委員会である。発掘調査担当者は下記のとおりである。

総括　文化スポーツ課　課　　長　谷敷秀次

主務　　同　上　　主　　任　中井真夕

5．現地発掘調査参加者　富山県シルバー人材センター連合会会員、浅井誠、野沢世糸江

6．本書の編集・執筆は、小矢部市教育委員会文化スポーツ課職員の協力を得て、中井が行った。ただし、本書の自然化学分析の分析結果については、パリノ・サーヴェイへ委託し、その結果を得た。

7．本書の図・写真図版の表示は次のとおりである。

1）遺構番号は、調査現場で付した番号である。番号はA区～C区まで、遺構の時期および種類に関わらず連番号とした。

2）遺構の略号は以下のとおりである。

SD：川・溝、SE：井戸、SK：土坑、P：柱穴

3）本書で示す方位は全て磁北で、水平基準は海抜高である。

4）引用・参考文献は、著者と発行年（西暦）を［　］で文中に示し、巻末に一括して掲載した。

5）遺構図の縮尺は、全体図等は調査区の大きさに即して1/50～1/300と各種ある。遺構の詳細平面図と断面図は1/20とした。遺物図には遺物の大きさに応じて1/1、1/2、1/3、1/4、1/6がある。

6）写真図版の縮尺は、遺構は任意、遺物は基本的に1/3であるが、遺物の大きさに応じて1/1、1/4、1/6がある。

8．出土遺物と調査に関する資料は、小矢部ふるさと歴史館で保管している。遺物の注記は、石名田木舟遺跡を示す「ＩＮＤＫＢＮ」に出土地区名（A区～C区）・出土地点等を併記した。また、本書に掲載した遺物は、図版毎にコンテナに入れ収蔵してある。

9．発掘調査中および報告書作成中、関係者および関係機関から多大な御教示・御協力を得た。記して謝意を表したい。

目　次

第Ⅰ章　位置と環境 …… 1
遺跡の位置 …… 1
歴史的環境 …… 1
第Ⅱ章　調査に至る経緯 …… 3
第Ⅲ章　調査の概要 …… 5
第Ⅳ章　調査の成果 …… 7
第Ⅴ章　まとめ …… 11
参考文献 …… 10
表 …… 12～13
抄録

図版目次

図版

第１図　遺跡位置図（1：25,000） …… 2
第２図　基盤整備全体計画と分布調査結果による要試掘調査範囲№.１～№.５（1：5,000） … 4
第３図　調査区位置図（1：1,200） …… 5
第４図　調査区時期別遺構分布推定図（任意） …… 11
第５図　Ａ区全体図（1/50）、遺構検出範囲拡大図（1/30） …… 15
第６図　Ａ区遺構図（1/20） …… 16
第７図　Ａ区ＳＥ４９平面・断面図（1/20） …… 17
第８図　Ｂ区古代面全体図（1/200）、遺構検出範囲拡大図（1/60） …… 18
第９図　Ｂ区遺構（古代面）断面図（1/20） …… 19
第10図　Ｂ区中世面全体図（1/200）、遺構検出範囲拡大図（1/80） …… 20
第11図　Ｂ区遺構（中世面）断面図（1/20） …… 21
第12図　Ｃ区全体図（1/300）、遺構検出範囲拡大図（1/40）、遺構断面図（1/20） …… 22
第13図　Ｂ区北側断面図（1/100）：上段、Ｃ区西側断面図（1/100）：下段 …… 23
第14図　Ａ区遺構出土遺物（１・３：1/3、２：1/4） …… 24
第15図　ＳＥ４９井戸側（1/6） …… 25
第16図　Ａ区出土遺物（５～８：1/3、９・10：1/4）：上段、Ａ区出土遺物（1/3）：下段 …… 26
第17図　Ｂ区出土遺物（1/3） …… 27
第18図　Ｂ区出土遺物（1/3） …… 28
第19図　Ｃ区遺構出土遺物ほか（57～67：1/3、69・70：1/2、71：1/1） …… 29

写真目次

図版１　Ａ区調査区全景：上段、遺構検出状況：下段
図版２　ＳＥ４９検出状況：上段、ＳＥ４９上面：中段、ＳＥ４９断面：下段
図版３　Ｂ区古代面全景：上段、遺構・遺物検出状況：下段
図版４　Ｂ区中世面全景：上段、ＳＫ１６付近遺構検出状況：中段、ＳＤ２７付近遺構検出状況：中段
図版５　Ｃ区調査区全景：上段、遺構検出状況：下段
図版６～図版10　出土遺物写真

報告書抄録

ふりなが	いしなだきふねいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	石名田木舟遺跡発掘調査報告書
副書名	ほ場整備（経営体育成基盤整備事業）地崎地区に伴う埋蔵文化財調査
シリーズ名	小矢部市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第66冊
編著者名	中井真夕
編集機関	小矢部市教育委員会
所在地	〒932-8611　富山県小矢部市本町１番１号
発行年月日	西暦２０１０年３月１９日

ふりなが 所収遺跡名	ふりなが 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °，，，	東経 °，，，	調査期間 （西暦）	調査面積 ㎡	調査原因
いしなだきふねいせき 石名田木舟遺跡	おやべし 小矢部市 じさき 地崎	16209	209169	36° 41′ 0″	136° 52′ 40″	20090610～ 20090819	680	ほ場整備 （経営体育成基盤整備事業） 地崎地区

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
いしなだきふねいせき 石名田木舟遺跡	散布地	奈良・平安	土坑、柱穴、溝	土師器・須恵器	
	散布地	中世	土坑、柱穴、溝、井戸	土師器・珠洲・青磁・石製品・木製品・土製品・近世陶器	

第Ⅰ章　位置と環境

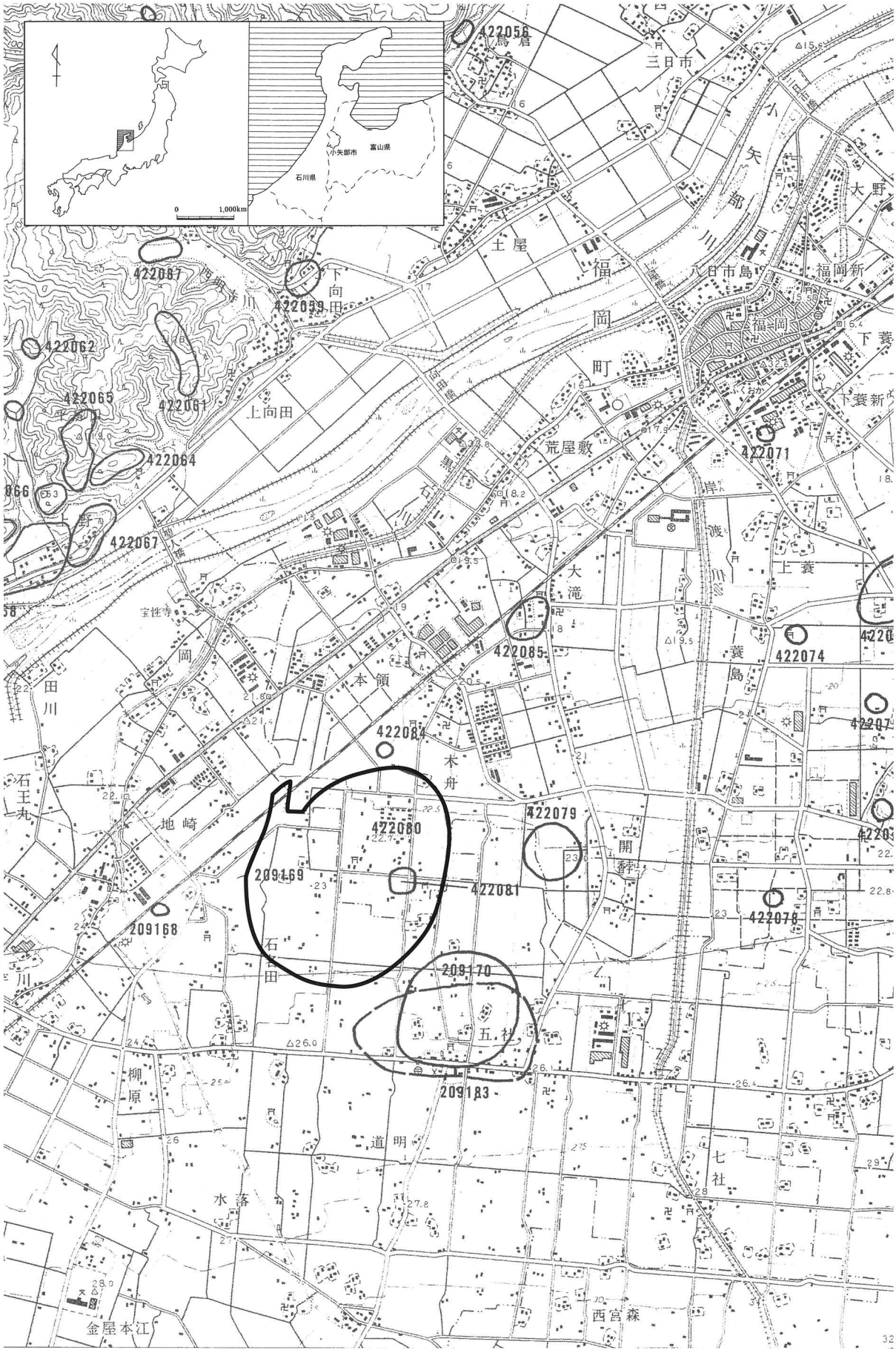
遺跡の位置（第１図）

石名田木舟遺跡は、富山県小矢部市地崎地内に所在する。小矢部市は、富山県の西端中央に位置し、石川県に隣接する。地形は、北・西・南の三方が丘陵性山地、東が平地、中央部が台地である。山地は、北部に市内最高所である稲葉山(標高 347m)から宝達山に連なる丘陵地、西方に加越国境線をなす石動丘陵、南方には医王山の北側を占める蟹谷丘陵がある。東側には、庄川の堆積作用によって形成された砺波平野が広がる。砺波平野は、散居村の景観で知られている。中央の台地は、庄川と小矢部川が形成した河岸段丘である。小矢部川は、渋江川、子撫川などの各丘陵地から出る中小河川の流れを集めて、段丘と平地の境を蛇行しながら北流し、下流の高岡市伏木において富山湾へ注いでいる。

石名田木舟遺跡は、小矢部川と砺波平野を貫流する庄川の扇状地に立地する。隣接する高岡市福岡町にまたがり、面積は、東西約 900m、南北約 900m と推計されている。当該遺跡については、今回の調査に先立ち実施した分布調査および試掘調査結果より、平成 20 年度に範囲の拡大を報告した。

歴史的環境

石名田木舟遺跡の付近では、縄文時代から近世まで各時代の遺跡が確認されている。なかでも小矢部川左岸に位置する桜町遺跡は、国道８号建設に先立ち実施した発掘調査の結果、縄文時代から近世まで連綿と続く複合遺跡で、特に縄文時代では、脆弱な木製遺物が大量に、かつ良好な状態で発見され、小矢部市を代表する遺跡のひとつである。また、周辺の五社地内に所在する五社遺跡では、条里型地割を示す溝が見つかっている。また、同地内には平安時代の文献『和名抄』にある砺波郡十二郷中の「長岡郷」の推定地、中世皇室御領の「糸岡庄」の所在がこのあたりを中心としたとされる糸岡神社が所在している。遺跡の範囲内には、木舟城跡が所在し、当時の繁栄が偲ばれる発掘調査結果が報告されている。



第１図　遺跡位置図（1/25,000）

第Ⅱ章　調査に至る経緯

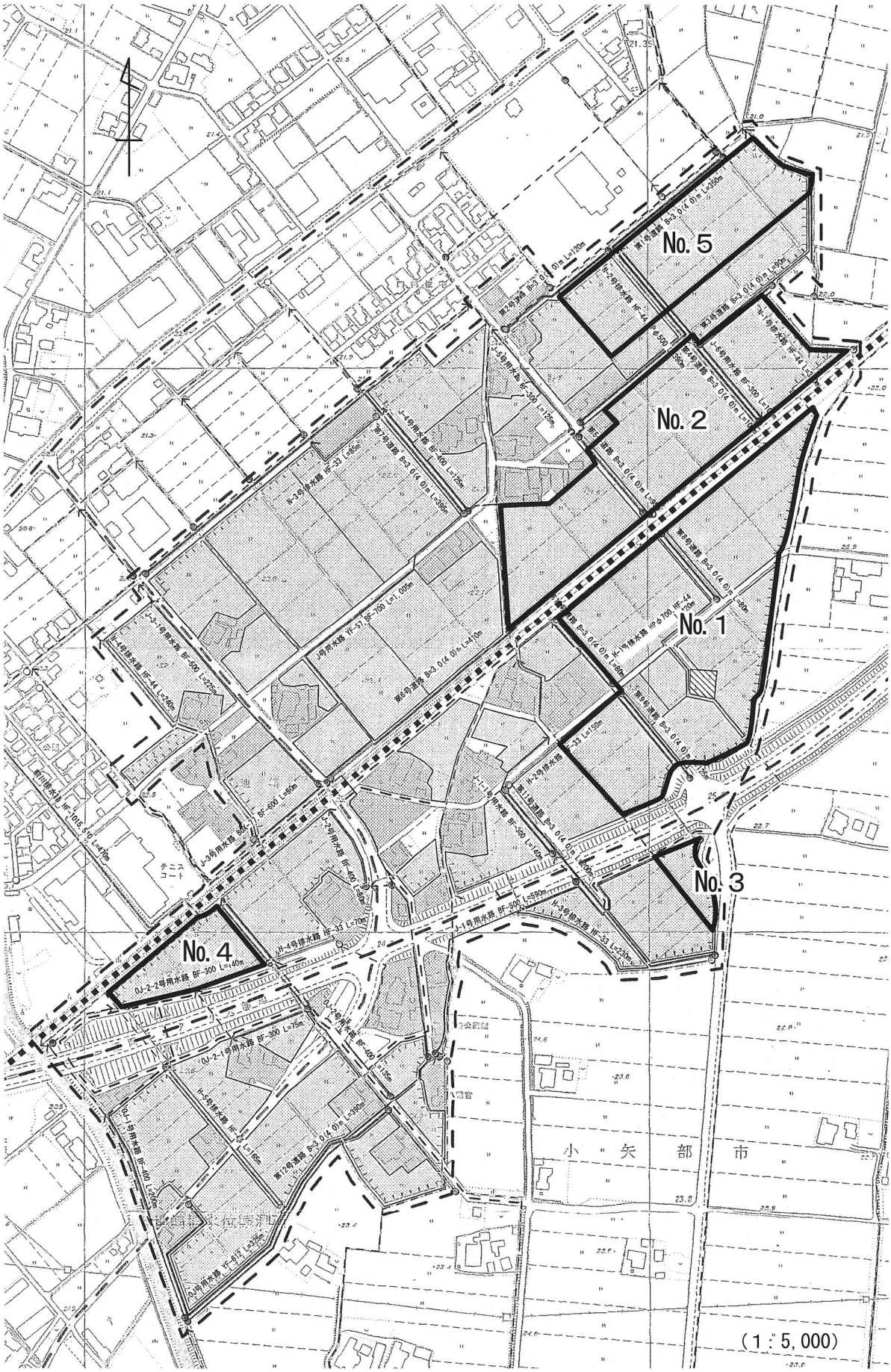
調査に至る経緯

当該事業は、平成19年１月に富山県高岡農地林務事務所（＝現、富山県高岡農林振興センター）より小矢部市教育委員会に協議をもたらされた。事業範囲内には、「石名田木舟遺跡」と「地崎遺跡」が含まれていること、事業規模が36万㎡と広範囲に及ぶことから、範囲内を分布調査後に、その後の調査方法を決めることとした。しかしながら事業計画が進展せず、分布調査は、以後の工事計画を見据えて、平成19年10月、稲刈り後の田起こしもされていない悪条件下で実施せざるを得なかった。踏査の結果、５箇所において、試掘調査が必要であると確認した。（第２図）　また、石名田木舟遺跡の範囲の拡大と、隣接する福岡町にもまたがり本領地崎遺跡を新発見として報告した。

同年11月、５箇所のうち１箇所（＝第２図№１）について試掘調査を実施した。その結果と隣接地で富山県文化振興財団により実施された本発掘調査結果から、範囲内の80％で本発掘調査の必要性を確認した。その結果を受け、工事の実施設計が大幅に見直され、田面の削平はせず、保護盛土することとされた。そして、掘削が避けられない水路部分のみを平成21年度に本発掘調査をすることで合意した。また、試掘調査が必要な４箇所については、平成20年度に実施し、その結果、２箇所において本発掘調査が必要であると確認し、協議を重ね、平成22年度に実施することで合意を得た。

過去の発掘調査

石名田木舟遺跡は、能越自動車道の建設に伴い発見された遺跡である。今回の調査地に隣接するアクセス道内の範囲は約45,000㎡あり、富山県教育委員会が主体となり、県埋蔵文化財センター、小矢部市教育委員会が平成２年度に分布調査、小矢部市教育委員会が同年度に試掘調査を実施した結果、約22,000㎡の範囲で遺跡が遺存している状況を確認した。その後、富山県文化振興財団により平成３年度に詳細試掘調査、平成５～７年度にかけて本発掘調査が実施された。調査の結果、古墳時代後期、７世紀後半～９世紀の古代集落跡、15世紀末～16世紀の中世期の城下町、近世遺構が確認された。遺跡の中心時期は、古代と中世後期である。古代では、竪穴建物、掘立柱建物、柵、溝、土坑、畠の遺構が検出された。遺物は、主に須恵器や土師器であるが、緑釉陶器が１点と、墨書土器が36点出土している。墨書土器には寺に関係する文字も認められ、能越自動車道建設に関連して行われた周辺の道路整備工事に伴う調査でも、宗教施設の存在を窺わせる瓦塔等が出土している。中世後期では、木舟城の城下町として繁栄したことを彷彿とさせる様様な建物跡をはじめとする遺構や、土器や陶磁器をはじめ、木製品や金属製品、石製品等の多種多様な出土遺物がみつかっており、なかでも記年銘資料となる木簡や鰐口も確認されている。



第２図　基盤整備全体計画図（＝■）と分布調査結果による要試掘調査範囲№１～№５（＝太線）

第Ⅲ章　調査の概要

A　調査地の現況

調査地は、遺跡の北東端にあたり、能越自動車道へのアクセス道が調査地の南側を東西に貫通している。対して北側にはＪＲ本線が東西に走っている。周辺には数件の民家等と小規模の墓地、平成20年度に完成した育苗施設があるが、周辺はほとんどが水田である。

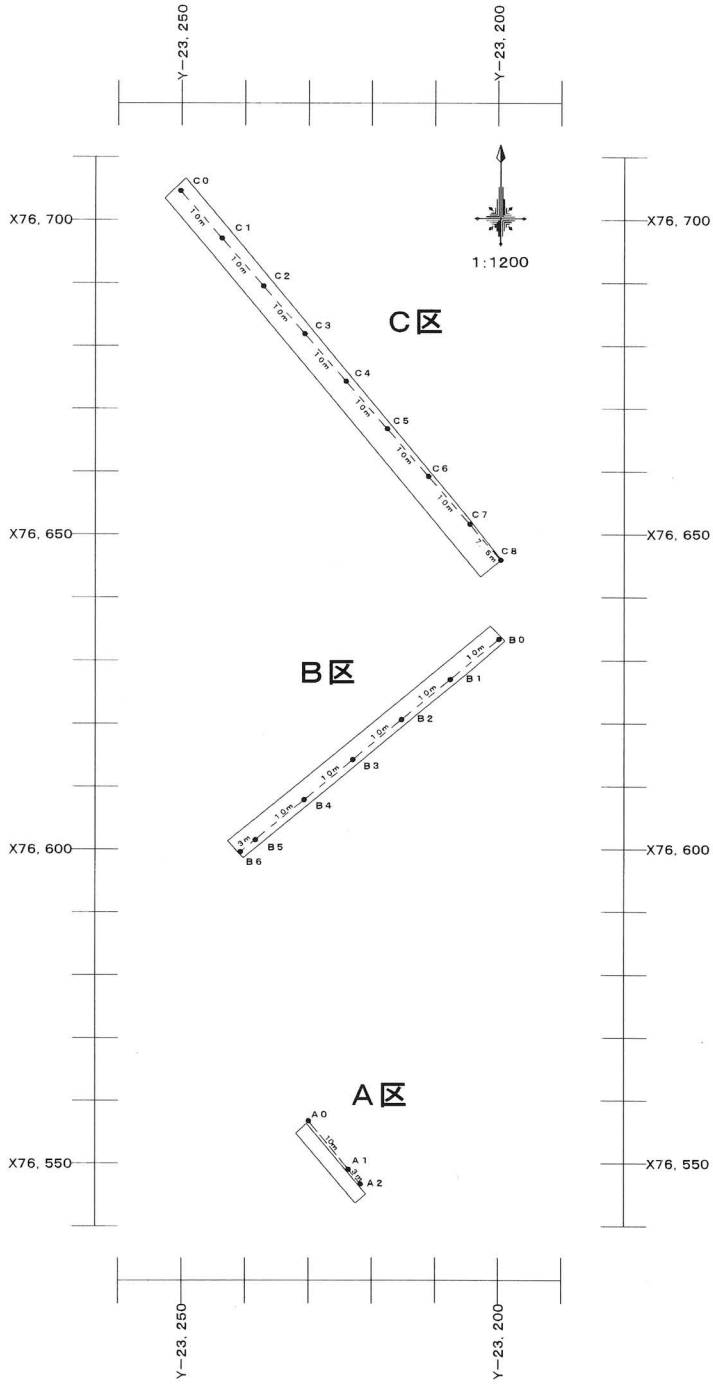
B　調査区の区割（第３図）

今回の調査は、掘削を行う水路部分が調査地であることから、３箇所に点在している。便宜的にＡ～Ｃ地区とし、調査区の形状に即して、それぞれ任意に原点０を定め10m間隔でグリッドを組んだ。グリッド設置後、平板で調査区の概略図を作成し、遺構配置図および遺物の取上げを行った。遺物は、遺構遺物以外は、グリッドごとに取上げた。

Ａ区　Ａ０～Ａ２
（補足杭として、Ａ３とＡ４を配置）
Ｂ区　Ｂ０～Ｂ６
（補足杭として、Ｂ７～Ｂ13を配置）
Ｃ区　Ｃ０～Ｃ８（補足杭はなし）

C　調査計画

試掘調査結果より、耕作土直下に遺構・遺物が依存しているため、耕作土の除去については慎重におこなうこととした。また、調査区の形状が縦長であるため、ベルトコンベアを設置せず、廃土は重機械により排出し、できる限り調査面積を確保することに努めた。Ｃ区の北側にはＪＲ本線が接していることから、航空測量の導入は避けた。調査は隣接地の整備工事の計画に合わせ、Ｃ区→Ｂ区→Ａ区の順に行うこと、調査完了区については



第３図　調査区位置図（1/1, 200）

速やかに工事受注者にあけわたすことを了解した。調査計画は「富山県埋蔵文化財発掘調査基準」を基に、期間・費用を積算し、調査体制は調査員１名、調査補助員１名、作業員10名で、調査期間は2.1ヶ月で算出した。

D　現地調査

調査は、表土（耕作土）・包含層掘削、遺構検出・掘削、遺構の記録を時代ごとに繰り返しおこなった。

表土（耕作土）掘削は、重機械を、包含層掘削と遺構検出・掘削は人力でおこなった。遺構番号は、３箇所の調査区で、時代も含めて、すべて通し番号で付した。

（調査日誌抄）

6/10　事務所設営
6/15　機材搬入・Ｃ区表土掘削
6/16　グリッド設定
6/17～26　遺物包含層掘削・遺構検出
6/29,30　記録作業、Ｂ区表土掘削・グリッド設定
7/2　Ｃ区深堀確認・調査完了
7/3～24　遺物包含層掘削・遺構検出、Ａ区表土掘削
7/25　Ｂ区記録作業
7/27　Ｂ区深堀確認・調査完了
7/28～8/3　遺物包含層掘削・遺構検出
8/4　Ａ区記録作業
8/5　Ａ区深堀確認・調査完了
8/6～8/19　遺物洗浄作業、遺物運搬
8/19　機材搬出・現地撤収

E　遺物整理

出土遺物は、現地および小矢部市桜町地内にある桜町JOMONパーク内の作業所で、洗浄し搬入した。注記・分類・接合・復元・実測作業は、民間業者に委託した。

出土品および記録品は、小矢部ふるさと歴史館にて保管している。

調査風景（Ｂ区）

遺構掘削状況（Ｂ区）

第Ⅳ章　調査の成果

Ａ～Ｃ区

基本層序　調査区は３箇所に点在しているため、その堆積厚には違いがあるが、基本的にⅡ層以下は全調査区で共通している。ⅠおよびⅡ層は、各調査区で厚さや堆積物が異なっている。Ⅲ層は中世包含層、Ⅴ層は古代包含層である。その他は、砂層と礫層が交互に堆積している。

Ａ区

Ａ　概要

この調査区は、南北方向に約 14m・東西方向に約２ｍの面積で、小規模な墓地の西側に沿うように位置し、北側には平成 20 年度に建設された育苗施設があり、ビニルハウス４棟が隣接している。このハウス設置時に調査区も含め周辺一体が整地されたようで、耕作土は除去されていたため、調査開始時に表土のみ除去した。

地表面から深さ 15～20cm のところで包含層であるⅢ層上面にいたる。その上には、表土、Ⅱ層が堆積する。

遺構は、Ⅳ層上面で中世の土坑(SK)５基、井戸(SE)１基を検出している。SK46 は五輪塔の水輪が埋設されている状態から、墓的もしくは、呪述的なものの可能性を考えている。その他の土坑については、その性格について判然としない。遺物は、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、石製品、木製品、土製品、近世陶器が出土している。

Ｂ　遺構（第５～７図、図版１・２）

ＳＫ45　調査区の北端付近に位置し、調査区外に広がるため規模は判らないが、深さ 15cm で、覆土は上層が灰黄色砂質ローム、下層は暗灰黄色砂質ロームである。覆土から室町後期に属する土師皿が出土している。

ＳＫ46　調査区の北側中央に位置し、長軸 72cm、短軸 60cm、深さ６cm で、覆土は灰黄色砂質ロームである。土坑の上面には、長さ 26cm、幅 10cm、高さ 9cm の石を置いたような状態で検出した。掘り進めると、５cm～8cm の小石が混入しており、穴の東側に寄せて水輪が納められていた。水輪には梵字「𑖪𑖽（バン）」が刻まれており、水輪の底部付近には、白色の断片が僅かであるが認められたが、骨片か断定できるだけの量はなく不明である。他遺跡を見ると、五輪塔が崩れた後、各種の残りの良い石を重ねたり、大きな土坑に一括して埋設してしまうなどの例がある。

ＳＫ47　SK46 の南側に位置し、長軸 75cm、短軸 73cm、深さ５cm で、覆土は灰黄色砂質ロームである。SK46 と同じように、土坑の上面には、長さ 15cm、幅 10cm、高さ 11cm 石が置かれていた。覆土中に古代の土師器片が出土したが、混入であろう。

ＳＫ48　調査区の東端に位置し、調査区外に広がるため規模は判らないが、深さ 14cm で、覆土は灰黄色砂質ロームである。検出時に土坑の縁に４cm～9cm 程度の小石が隙間無く並べられており、掘り進めると、多少の隙間はあるものの、底面まで並べられていた。覆土中から古代の

土師器が出土している。

ＳＫ50　SK48の南東に位置している。検出時は、不揃いの大きさの石が集積していたが、土坑とは判断ができなかった。精査を進めた結果、集積部の土が、明確ではないものの灰黄色砂質ローム土の覆土であると判断した。しかしながら断面は記録できなかった。

ＳＫ51　調査区の南西端に位置し、調査区外に広がるため規模は判らないが、深さ7cmで、覆土は灰黄色砂質ローム土である。出土遺物は無い。

ＳＥ49　SK50の東隣りに位置し、検出当時は、サイズが様々な石が集積しており、当初は２基の別々の土坑であると考えていた。掘り進めるうちに、前述した大きさの石が、規則性もなく現れたことや、その覆土が同じであることから、２基の土坑はひとつのものであることを確認した。その後、やはり石が規則性のないまま穴に入れられている状況で、約60cm掘ったところで曲げ物が現れ井戸であると判った。井戸は、大きさが長さ30cmほどの石が水溜の上面で、わずかに石が組まれた状態が残っていたが、ほとんど崩れていた。周辺に検出されている土坑などの検出面の高さから、井戸としての本来の深さは残存状況から１m強程度であったと考えられる。何らかの原因で石組が崩壊したため、復旧をせずに蓋をするよう石を埋設した上に配置したのではないかと考えられる。調査区外の西側で断面ではあるが別の井戸１基を確認しており、現在も水が湧いていることなどから水源が浅く、この辺りが水場として利用されていたものと考えられる。覆土中から室町後期に属する珠洲の小片が出土している。

Ｃ　遺物（第14～16図、図版６）

遺物量は少ないが、主に平安時代末期と室町時代のものが、遺構・包含層から出土している。なかから比較的残りのよいもの掲載した。平安時代末期のものは、包含層から珠洲甕９が出土している。室町時代のものは、土錘４、土師皿１・６・７、珠洲の擂鉢３・８、甕10、五輪塔水輪２、井戸側が出土している。

Ｂ区

Ａ　概要

この調査区は、南北方向に約４m・東西方向に約60mの面積で、Ａ区の北東に位置し、水田地帯を東西に貫通する市道に隣接している。Ａ区で触れた小規模な墓地は調査区の南側に位置する。

地表面から深さ40cmのところで中世の包含層であるⅢ層上面にいたる。その上には、現況道路、Ⅱ層が堆積する。またⅢ層上面から、深さ10cmで古代の包含層のＶ層上面となる。

検出した遺構は、古代では土坑14基、柱穴(P)３基、である。遺構は調査区の東側に集中しているが、調査区の幅が４m弱と狭いので建物等のプランは結べない。遺構が集中している範囲の西側では、明確なラインは引けなかったものの、点線で線引きした（第８図）３m四方の範囲では、ほぼ完形の遺物が４点出土していること、範囲の中に位置するSK42の底面が淡赤褐色の焼土であったことから、竪穴住居の可能性も考えられる。しかしながら、これに伴う柱穴がＰ29～31の３基しかないうえ、その３基の位置や深度をみると、可能性は低くなるため、今回は点線で表現した。中世では土坑17基、柱穴(P)３基、SD１条である。古代と同様に遺構は、

調査区の中央部から東側に集中しており、覆土からの出土遺物も少なく、プラン等も結べるものは認められない。遺物は古代と中世の包含層から、須恵器、土師器、製塩土器、中世土師器、珠洲、瓦質土器、青磁、常滑、越中美濃、近世陶器が出土している。

B　遺構（第８・９･13図、図版３）

遺構については、古代、中世ともに特徴があるものについて詳細を記載する。

(古代)

ＳＫ42　調査区の東側に位置し、長軸 180cm、短軸 135　cm、深さ７cm で、覆土は黒褐色砂質ロームである。この覆土の一部分が、焼けたように淡赤褐色土であったことから、火を焚いていた場所の可能性が考えられるが、それに付随する遺物等は認められないため可能性だけにとどめる。

ＳＫ43　ＳＫ42 の西側に位置している。長軸 110cm、短軸 95cm、深さ 19cm で、覆土はオリーブ黒色シルト質ロームであるが、その土が腐植土であった。他の土坑に入っている土とは明らかに違うものであり、ゴミ捨てのための穴の可能性が考えられた。

(中世)

Ｐ18　調査区の東側よりやや中央に位置し、長軸 25cm、短軸 20cm、深さ 16cm で、覆土は黒色砂質ローム土である。断面より 15cm 程の木柱が入っていたと考えられる。

Ｐ22　前述したＰ18 より更に 20m東側に位置しており、長軸 20cm、短軸 20cm、深さ 17cm で、覆土は黒色砂質ローム土である。断面に 20cm 程の木柱が入っていたと見られるが、Ｐ18 と同様に、周辺に同じような柱穴が検出できなかったため、どのような建物があったかはわからない。

C　遺物（第 16～18 図、図版７～９）

遺物は包含層出土遺物が多いが、遺構出土遺物や残存状態が良いものを掲載した。

(奈良～平安時代)

奈良時代の遺物は、包含層から中期～後期のものが出土している。須恵器の杯蓋 19、無台杯 20～22、瓶 23･25、鉢 24、土師器の内黒椀 26.27、甕 35.37、鍋 36 が出土している。平安時代の遺物は、遺構および包含層から前期～後期のものが出土している。前記は、土師器の椀 11･14･15･18･28･29、甕 12･13･16 である。後期は、土師器の内黒椀 31、椀 30･32～34 がある。その他に、製塩土器 38.39 が出土している。

(中・近世)

中世の遺物は、包含層からの出土で、時期はほとんどが室町時代に属する。皿土師器 40～53、瓦質土器の火鉢 54、硯 55 がある。近世では江戸時代に属する唐津灯明皿 56 が、包含層から出土している。

Ｃ区

A　概要

この調査区は、南北方向に約 80m、東西方向に約４mの面積で、北端がＪＲ本線と接している。３調査区のなかで標高の高低差が大きく、完掘後にＣ１地点付近で 21.9m、Ｃ８地点付近

で22.4ｍを測った。

地表面から深さ50cmのところで中世の包含層であるⅢ層上面にいたる。その上には表土・耕作土と、農道用盛土が堆積している。しかしながら、基本土層となる南北断面から、南端より10ｍから北には中世面の遺存はなく、遺物量は極めて少ないが古代の包含層が遺存していることが判った。また、南端から9m～35mまでは礫層が隆起しており、これより下層には遺構等の存在は無いもの判断した。

古代では厚さ20cmの包含層のみが存在し、遺構は確認できなかった。中世では調査区の南端で、小規模の範囲で土坑6基を検出した。この遺構面が築かれたⅣ層以下は先に述べた礫層となり、古代の面は存在していないことを深堀して確認した。遺物は、古代および中世の包含層より須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、瓦質土器が出土している。また、包含層より上層面からは、包含層出土と同じ時期の遺物のほか、青磁をはじめ近世陶器類、銅銭、鉄砲玉、キセルが出土している。

B　遺構（第12･13図、図版5）

遺構については、遺物が出土したものについて詳細を記載する。

ＳＫ3　長軸40cm、短軸33cm、深さ12cmで、覆土は暗褐色砂である。覆土中には珠洲の甕と、古代の土師器が含まれていた。

ＳＫ6　長軸34cm、短軸30cm、深さ17cmで、覆土は暗褐色砂である。覆土中には完形の土師皿が1点含まれていた。

C　遺物（第19図、図版10）

遺物は、遺構出土遺物のほか、包含層出土遺物やⅠやⅡ層から出土したもので特徴のあるものや、残存状態が良いものを掲載した。

(平安時代)

遺物は前期のものが出土しており、土師器の内黒椀59、椀61、須恵器の有台杯60がある。

(中・近世)

中世の遺物は、時期はいずれも室町時代に属する。土師器皿 57･58･62～64、青磁皿 65、珠洲甕 66、瓦質土器 67、銅銭（元祐通宝）71がある。近世では安土桃山時代～江戸時代に属する越中瀬戸皿68、鉄砲玉69、キセル70が出土している。

参考文献

山森伸正ほか　1991『富山県小矢部市能越自動車道関係遺跡群試掘調査報告』小矢部市教育委員会

斉藤隆ほか　1995『富山県福岡町石名田木舟遺跡発掘調査報告書』福岡町教育委員会

藤代全代　1996『平成7年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報』小矢部市教育委員会

栗山雅夫　2002『富山県福岡町木舟城跡発掘調査報告』福岡町教育委員会

池野正男ほか　2002『石名田木舟遺跡発掘調査報告』財団法人富山県文化振興財団

栗山雅夫　2003『富山県福岡町埋蔵文化財分布調査報告Ⅰ』福岡町教育委員会

中井真夕　2008『富山県小矢部市平成19年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報』小矢部市教育委員会

第Ⅴ章　まとめ

1．本書は、石名田木舟遺跡の発掘調査で検出した古代および中世の遺構や遺物について報告したものである。

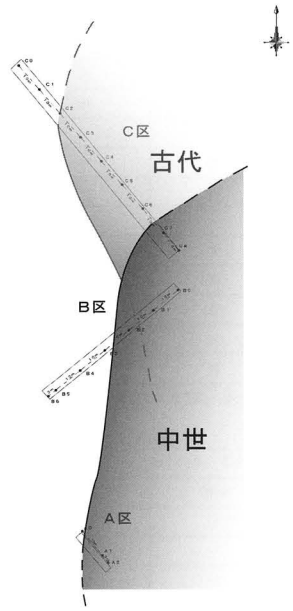
2．今回の調査区はＡ～Ｃ区の３箇所に点在しており、それぞれの調査区の関連性は明らかにはできなかったが、古代および中世の当時の地形は確認できた。このことにより、今回の事業において保護された周辺の水田での遺存状況は把握できたと考えている。

3．今回検出した遺構は、古代では、土坑、柱穴、溝である。また、明確ではなかったものの竪穴住居の存在が見込まれた。中世では、古代と同様に土坑、柱穴、溝のほか井戸を確認した。これらの土坑等については、規模や形状が様々であることや、調査区の範囲などから、その性格などは不明であるが、検出面やその上層の包含層より、時期は、古代は平安時代後期に、中世は室町時代後期に属するものと考えられる。

4．Ａ区は調査面積が当初計画より減少したことや現況から、遺構・遺物の存在は希薄であると考えられたが、石組井戸や集石された土坑などを検出した。また、井戸は使用しなくなった場合、土器をはじめとした生活道具などを捨てる傾向にあるが、そういった遺物はなく、おそらく組まれていた石がそのまま埋められた状態であった。五輪塔の水輪については、調査区外でも井戸を確認していることから、当該地が水場として利用され、それに関わる儀式として埋められた可能性も考えている。

5．Ｂ区およびＣ区では、調査区の一角に遺構が集中している傾向にあったが、遺物量は少ないものの包含層を確認し、古代と中世の２時期の存在を明らかにできた。

6．今回出土した遺物は、遺構や遺物包含層から出土した以外に、耕作土や盛土などからも様々な時期や種類の遺物が採取できた。当該地が扇状地であることから流されてきた可能性も大きいが、周辺にそれぞれの時期の営みがあった可能性も考えられる。



第４図　調査区周辺時期別遺構分布推定図（任意）

表１　Ａ区検出遺構一覧表

遺構番号	形状	穴の規模　単位：cm			時期	出土遺物	備考
		長軸	短軸	深さ			
ＳＫ 45	不明	－	－	15	中世	土師器　皿	調査区外へかかる
ＳＫ 46	楕円	72	60	6	中世	水輪	
ＳＫ 47	円	75	73	5	中世		
ＳＫ 48	不明	－	－	14	中世		調査区外へかかる
ＳＥ 49		140	－	76	中世	珠洲　摺鉢	石組井戸
ＳＫ 50	楕円	90	57	－	中世		
ＳＫ 51	不明	－	－	7	中世		調査区外へかかる

表２　Ｂ区検出遺構一覧表

遺構番号	形状	穴の規模　単位：cm			時期	出土遺物	備考
		長軸	短軸	深さ			
ＳＫ 7	楕円	60	50	15	中世		
ＳＫ 8	楕円	40	30	20	中世		
ＳＫ 9	不明	80	－	10	中世		調査区外へかかる
ＳＫ 10	楕円	40	45	20	中世		
ＳＫ 11	楕円	80	55	20	中世		
ＳＫ 12	円	30	30	12	中世		調査区外へかかる
ＳＫ 13	不明	45	－	10	中世		
ＳＫ 14	円	20	20	12	中世		
ＳＫ 15	円	30	30	17	中世		
ＳＫ 16	楕円	70	70	25	中世		
ＳＫ 17	円	20	20	12	中世		
Ｐ 18	円	25	20	16	中世		柱跡
Ｐ 19	円	25	20	18	中世		
Ｐ 20	円	20	20	15	中世		
ＳＫ 21	円	25	20	15	中世		
ＳＫ 22	円	20	20	17	中世		柱跡
ＳＫ 23	円	20	20	12	中世		
ＳＫ 24	円	15	15	10	中世		
ＳＫ 25	円	20	20	18	中世		
ＳＫ 26	不明	50	－	16	中世		一部欠損
ＳＤ 27	－	－	400	20～30	中世		調査区外へかかる
ＳＫ 28	円	40	35	8	古代		
Ｐ 29	円	20	15	10	古代		
Ｐ 30	楕円	20	25	20	古代		
Ｐ 31	円	20	20	23	古代		
ＳＫ 32	楕円	30	30	14	古代	土師器　椀	
ＳＫ 33	不明	－	－	－	古代	土師器　甕	
ＳＫ 34	不明	60	－	22	古代		
ＳＫ 35	楕円	90	70	18	古代		調査区外へかかる
ＳＫ 36	不明	－	50	－	古代		
ＳＫ 37	不明	35	30	13	古代		
ＳＫ 38	不明	30	30	18	古代	土師器　椀	
ＳＫ 39	欠番	－	－	－	古代		
ＳＫ 40	楕円	75	50	36	古代		
ＳＫ 41	不整形	75	50	18	古代		
ＳＫ 42	不整形	180	135	7	古代	土師器　椀	
ＳＫ 43	楕円	110	95	19	古代	須恵器　瓶類	
ＳＫ 44	円	25	25	8	古代	土師器　椀	

※ＳＤ27については、溝の規模となり、（幅、深さ）の計測となる。

表３　Ｃ区検出遺構一覧表

遺構番号	形状	穴の規模　単位：cm			時期	出土遺物	備考
		長軸	短軸	深さ			
ＳＫ 1	不整形	90	73	20	中世		
ＳＫ 2	不明	－	－	15	中世		調査区外へかかる
ＳＫ 3	不整形	40	33	12	中世		
ＳＫ 4	楕円	30	22	8	中世		
ＳＫ 5	楕円	34	20	8	中世		
ＳＫ 6	楕円	34	30	17	中世	土師器　皿	

表４　石名田木舟遺跡Ａ地区遺物一覧表

番号	種　類	器　種	出土遺構・地区・層位	大　き　さ	特　徴	時　期
1	土師器	皿	ＳＫ45	口径12.7cm、器高1.95cm、底径6.2cm	非ロクロ成形。底部は平底。口縁部は外反する。	室町後期
2	石製品	五輪塔	ＳＫ46	長径32.5cm、短径31.6cm、高さ18.3cm	水輪。凝灰岩製。梵字「𑖀」を刻む。	室町
3	珠洲	擂鉢	ＳＥ49	口径28.4cm	口縁部内面に波状文。珠洲Ⅵ期。	室町後期
4	木製品	曲物	〃	径54.1cm、高さ35.3cm（残存）	水溜　スギ、板目。木裏側に1.7～２cm間隔の切込みあり。	〃
5	土製品	土錘	Ａ－１地区、Ⅲ層	径5.0cm	上下端・下部欠損。	室町か
6	土師器	皿	〃　〃	口径13.7cm	非ロクロ成形。口縁部は外反する。	室町後期
7	〃	〃	Ａ－１地区、Ⅱ層	口径11.0cm	非ロクロ成形。口縁部は外反し、端部をつまみ上げる。	〃
8	珠洲	擂鉢	〃　〃	底径11.0cm	オロシ目は幅1.8cmで８条。珠洲Ⅳ～Ⅴ期。	〃
9	〃	甕	Ａ－１地区、Ⅲ層	口径52.0cm	口縁部がやや下方へ延びる。珠洲Ⅰ期。	平安末期
10	〃	〃	Ａ－２地区、Ⅱ層	口径45.0cm	珠洲Ⅴ期。	室町後期

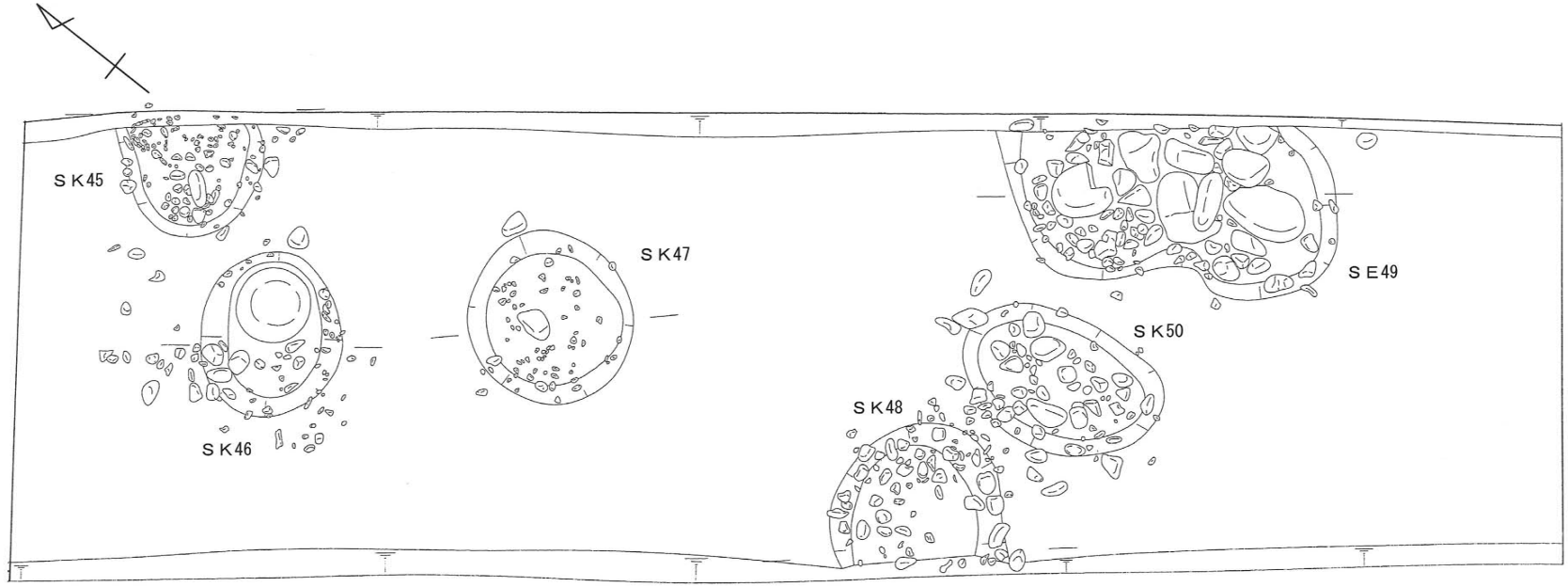
表５　石名田木舟遺跡Ｂ地区遺物一覧表

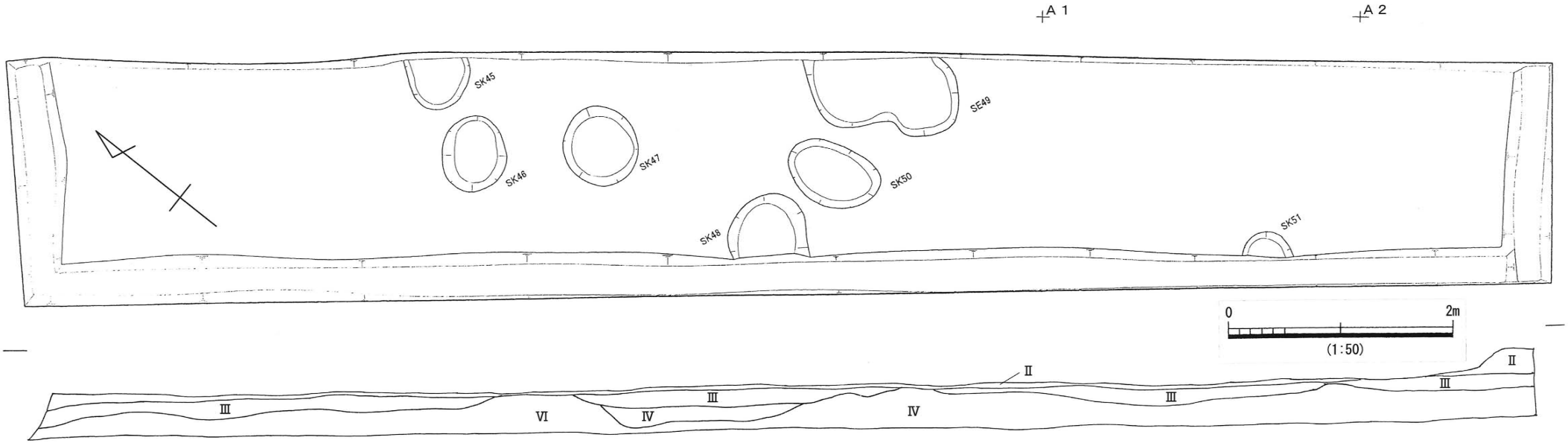
番号	種　類	器　種	出土遺構・地区・層位	大　き　さ	特　徴	時　期
11	土師器	椀	ＳＫ32	口径11.6cm、器高4.75cm、底径5.7cm	底部は回転糸切り。	平安前期
12	〃	甕	ＳＫ33	口径12.6cm	口縁端部を上方へつまみ上げる。	〃
13	〃	〃	〃		底部は丸底。	〃
14	〃	椀	ＳＫ38	口径15.2cm	口縁端部がやや外反する。	平安後期
15	〃	〃	ＳＫ41	口径14.9cm	口唇面を形成する。	平安前期
16	〃	甕	〃	口径23.5cm	口縁端部を肥厚し内折する。	〃
17	須恵器	瓶類	ＳＫ42	底径13.3cm	底部外面をヘラケズリ。	〃
18	土師器	椀	ＳＫ43	底径5.6cm	底部は回転糸切り。	〃
19	須恵器	杯蓋	Ｂ－２地区、Ⅴ層	口径15.3cm、器高3.0cm	口縁端部は三角形。	奈良中期
20	〃	杯	Ｂ－１地区　〃	口径11.7cm、器高3.8cm、底径7.9cm	底部境に稜、体部開く	〃
21	〃	〃	Ｂ－２地区　〃	口径13.3cm、器高3.85cm、底径8.0cm	底部境丸い　〃	〃
22	〃	〃	〃　〃	口径12.3cm、器高4.3cm、底径8.6cm	底部境に稜　〃	〃
23	〃	壺	Ｂ－５地区、Ⅱ層	口径17.7cm	口唇面を形成する。	〃
24	〃	鉢	Ｂ－１地区、Ⅴ層	口径19.5cm	口縁部が外反する。	〃
25	〃	瓶	〃　Ⅱ層	底径16.8cm		〃
26	土師器	椀	Ｂ－２地区、Ⅴ層	口径15.6cm、器高5.0cm、底径6.2cm	外面赤彩、内面黒色処理。	〃
27	〃	〃	〃　〃	口径15.7cm、器高5.55cm、底径11.8cm	〃	〃
28	〃	〃	Ｂ－１地区　〃	口径10.4cm	内外面赤彩。	平安前期
29	〃	〃	Ｂ－２地区　〃	口径12.8cm	口縁部開く。	〃
30	〃	〃	Ｂ－５地区、Ⅴ’層	口径13.6cm、器高3.7cm、底径6.7cm	口縁部がやや内弯する。底部は回転糸切り。	平安後期
31	〃	〃	Ｂ－２地区、Ⅱ層	底径6.0cm	低い高台が付く。内面黒色処理。	〃
32	〃	皿	Ｂ－１地区、Ⅴ層		高台はやや踏ん張る。	〃
33	〃	〃	Ｂ　地区、Ⅱ層	底径6.9cm	〃	〃
34	〃	〃	Ｂ－１地区　〃	底径6.6cm	〃	〃
35	〃	甕	Ｂ－２地区、Ⅴ層	口径20.3cm	口唇面を形成する。	奈良中期
36	〃	鍋	〃　〃	口径32.6cm	〃	〃
37	〃	甕	Ｂ－１地区　〃	口径20.8cm	口縁部を上方へ立ち上げる。	〃
38	〃	製塩土器	〃　〃		橙色。	奈良～平安
39	〃	製塩土器	Ｂ－１地区		橙色。	奈良～平安
40	〃	皿	Ｂ－４地区、Ⅴ層	口径7.3cm、器高2.2cm、底径6.7cm	非ロクロ成形。口縁部は短く外反する。	室町後期
41	〃	〃	Ｂ－１地区　〃	口径7.8cm、器高1.7cm、底径7.1cm	非ロクロ成形。　〃	〃
42	〃	〃	〃　〃	口径8.9cm、器高2.05cm、底径4.9cm	〃　口縁部は外反する。	〃
43	〃	〃	Ｂ－２地区、Ⅱ層	口径8.7cm、器高2.3cm、底径4.6cm	〃　〃	〃
44	〃	〃	Ｂ－４地区　〃	口径8.8cm、器高1.75cm、底径2.6cm	〃　〃	〃
45	〃	〃	Ｂ－１地区、Ⅴ層	口径8.7cm、器高1.45cm、底径4.4cm	〃　口縁部は短く外反する。	〃
46	〃	〃	Ｂ－２地区　〃	口径8.8cm	〃　〃	〃

番号	種類	器種	出土遺構・地区・層位	大きさ	特徴	時期
47	土師器	皿	Ｂ－２地区、Ｖ層	口径8.8cm、器高2.1cm、底径4.0cm	〃　口縁部は外反する。	〃
48	〃	〃	Ｂ－１地区、Ⅲ層	口径8.8cm、器高2.0cm、底径3.6cm	〃　〃	〃
49	〃	〃	Ｂ－４地区、Ⅱ層	口径10.8cm、器高2.0cm、底径8.6cm	〃　口縁部は短く外反する。	〃
50	〃	〃	〃　〃	口径9.8cm、器高2.1cm、底径8.6cm	〃　〃	〃
51	〃	〃	Ｂ－１地区、Ｖ層	口径12.8cm	〃　口縁部は外反する。	〃
52	〃	〃	〃　〃	口径13.6cm	〃　〃	〃
53	〃	〃	〃　〃	口径16.7cm	〃　〃	〃
54	瓦質土器	火鉢	〃　Ⅲ層	口径33.0cm	胎土に海綿骨針を含む。	〃
55	石製品	硯	Ｂ－６地区、Ⅵ層		泥岩製。	室町後期か
56	唐津	灯明皿	〃　〃	口径6.3cm、器高1.55cm、底径4.8cm	内外面に長石釉施釉。	江戸

表６　石名田木舟遺跡Ｃ地区遺物一覧表

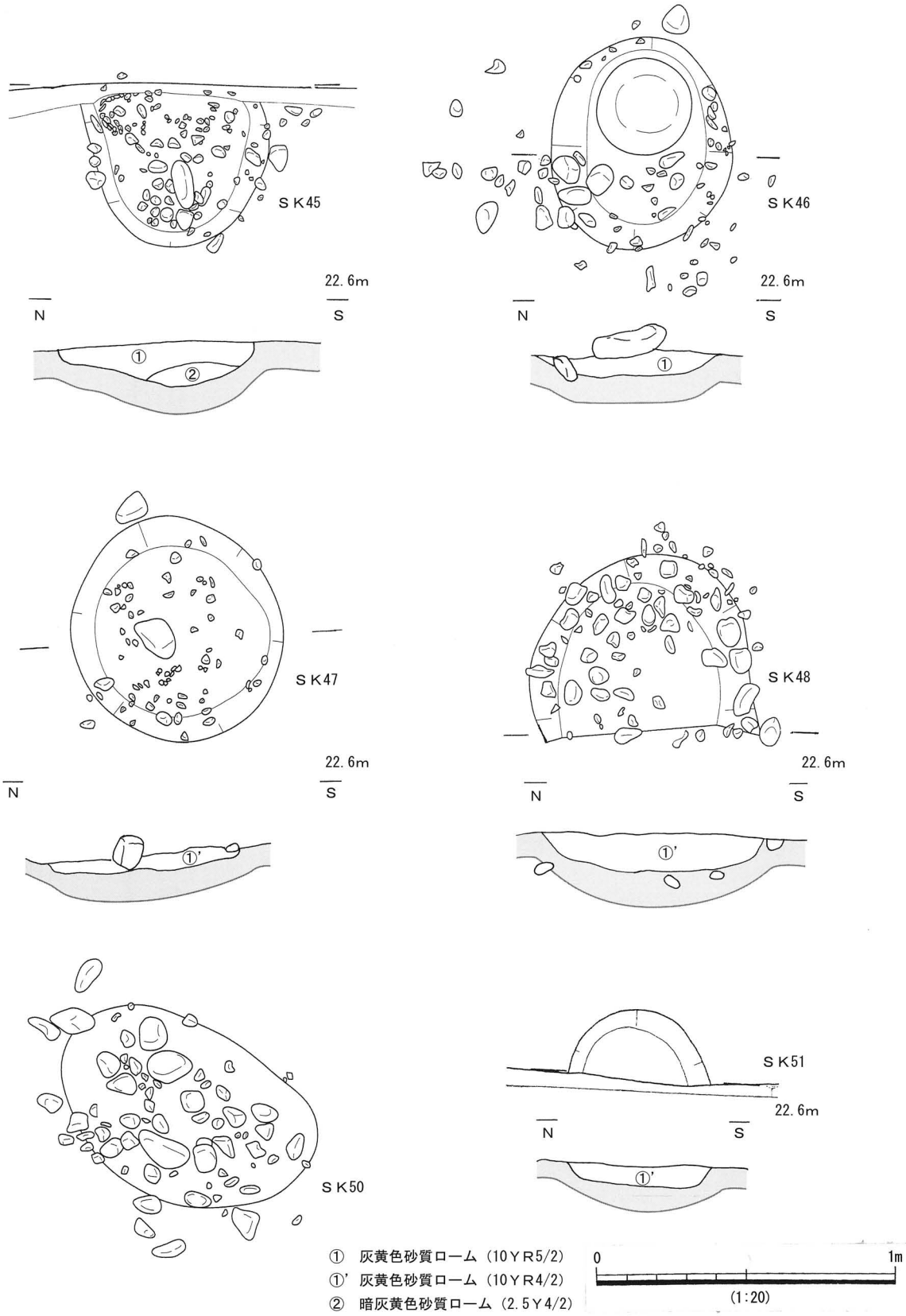
番号	種類	器種	出土遺構・地区・層位	大きさ	特徴	時期
57	土師器	皿	ＳＫ６	口径8.4cm、器高2.0cm、底径4.7cm	非ロクロ成形。口縁部は外反する。	室町後期
58	〃	〃	〃	口径11.2cm	〃　〃	〃
59	〃	椀	Ｃ－８地区、Ⅲ層	口径15.0cm、器高4.65cm、底径6.05cm	口縁部は外反する。内面黒色処理。	平安前期
60	須恵器	高台杯	Ｃ－４地区、Ｉ’層	底径7.0cm	底部境に稜。	〃
61	土師器	椀	Ｃ－８地区、Ⅲ層	底径6.0cm	底部は回転糸切り。	〃
62	〃	皿	Ｃ－２地区、Ｖ層	口径9.7cm、器高1.4cm、底径8.9cm	非ロクロ成形。口縁部は短く外反する。	室町後期
63	〃	〃	Ｃ－８地区、Ⅲ層	口径8.8cm、器高1.4cm、底径8.0cm	〃　〃	〃
64	〃	〃	Ｃ－１地区、Ｖ層	口径15.8cm	〃　口縁部は外反する。	〃
65	青磁	皿	Ｃ－８地区、Ｉ’層	口径13.3cm	口縁部は外反する。	〃
66	珠洲	壺	Ｃ－５地区　〃	口径27.6cm	口唇面を形成する。珠洲Ｖ期。	〃
67	瓦質土器	火鉢	Ｃ－８地区、Ⅲ層	口径25.6cm	胎土に海綿骨針を含む。	〃
68	越中瀬戸	皿	Ｃ－２地区、Ｉ’層	口径11.6cm、器高2.4cm、底径5.2cm	底部は削り出し高台。内外面に鉄釉施釉。	江戸時代
69	金属製品	鉄砲玉	Ｃ－３地区　〃	径1.15cm、重さ7.87ｇ	鉛製。	安土桃山か
70	銅製品	キセル	〃　〃		火皿。つぶれている。	江戸時代
71	銅銭	元祐通宝	Ｃ－２地区　〃	径2.35cm、重さ2.83ｇ	初鋳1086年。篆書体。	室町



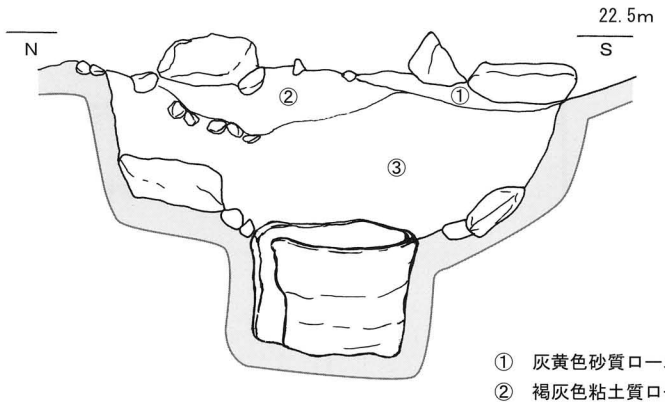


Ⅰ　オリーブ黒色ローム（５Ｙ3/1）＝図面にはない。
Ⅱ　暗灰黄色ローム（2.5Ｙ4/2）
Ⅲ　黄褐色砂（2.5Ｙ5/3）
Ⅳ　褐灰色シルト質ローム（10ＹＲ4/1）＝遺構の可能性

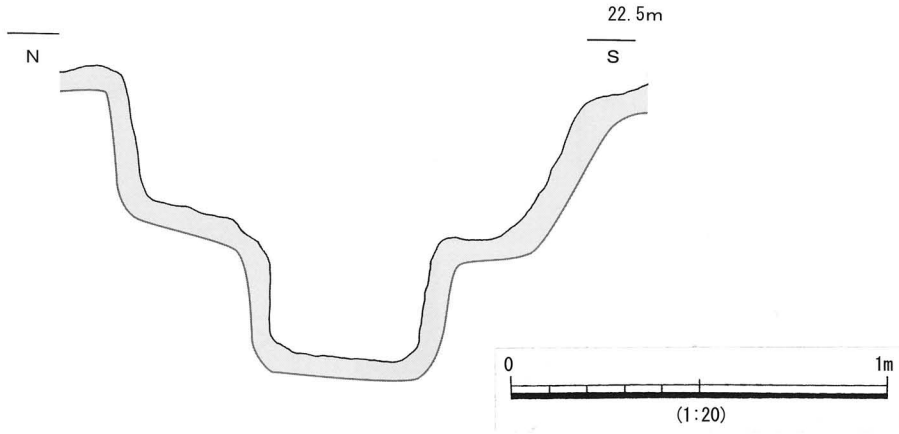
第５図　Ａ区全体図（1/50）、遺構検出範囲拡大図（1/30）



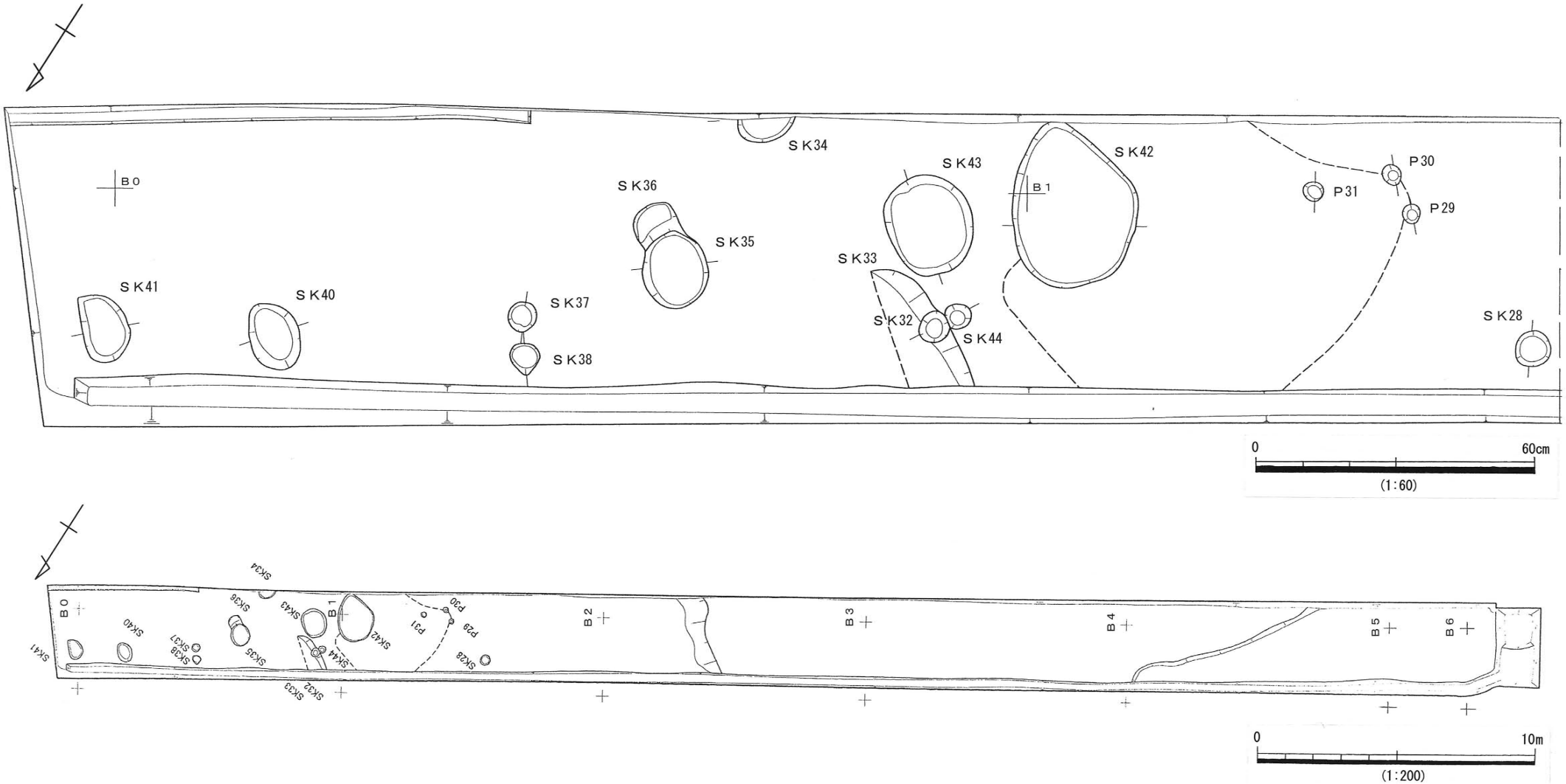
第６図　Ａ区遺構図（1/20）



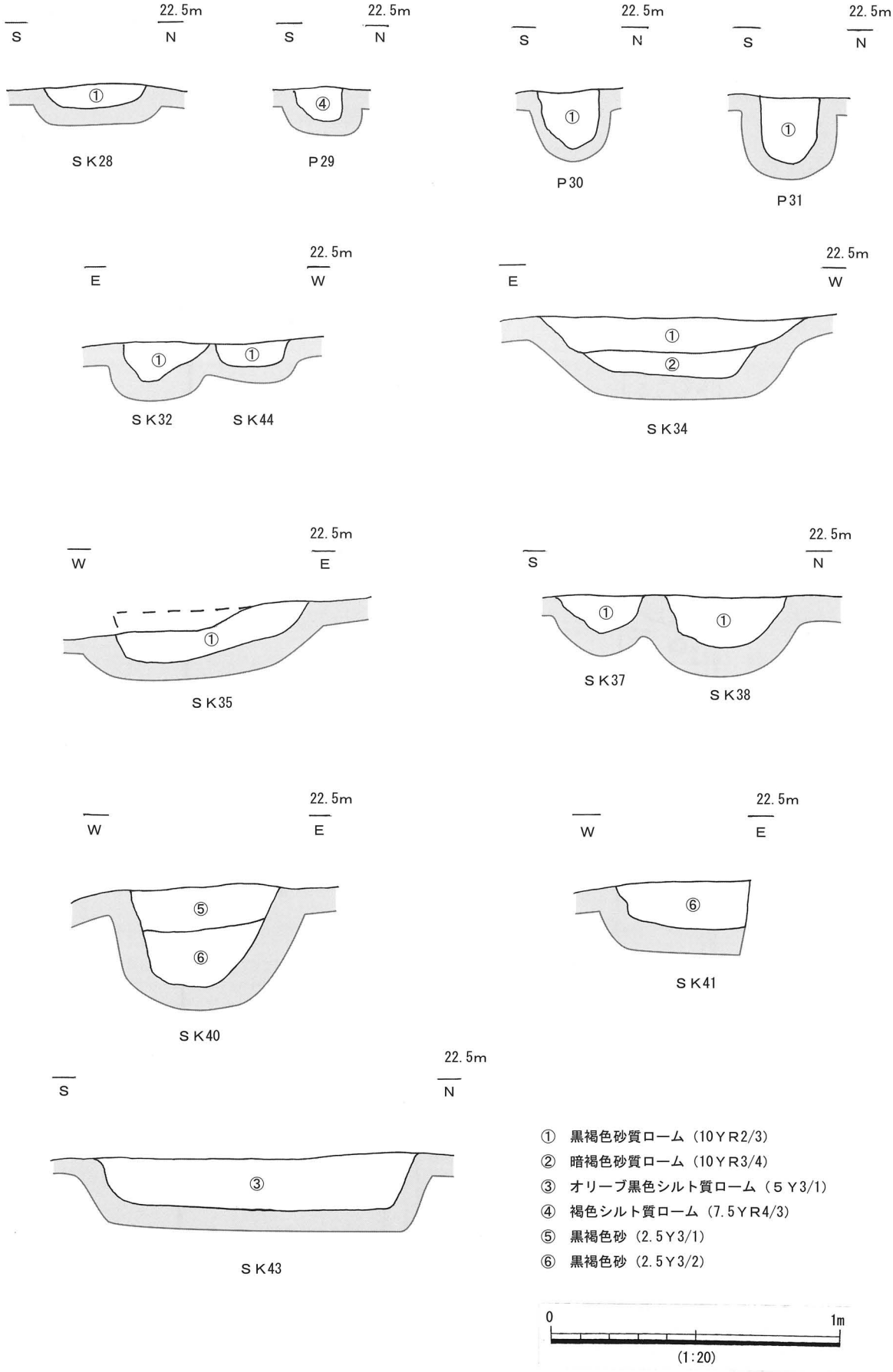
① 灰黄色砂質ローム（10ＹＲ4/2）
② 褐灰色粘土質ローム（10ＹＲ4/1）
③ 褐灰色砂質土（10ＹＲ5/1）



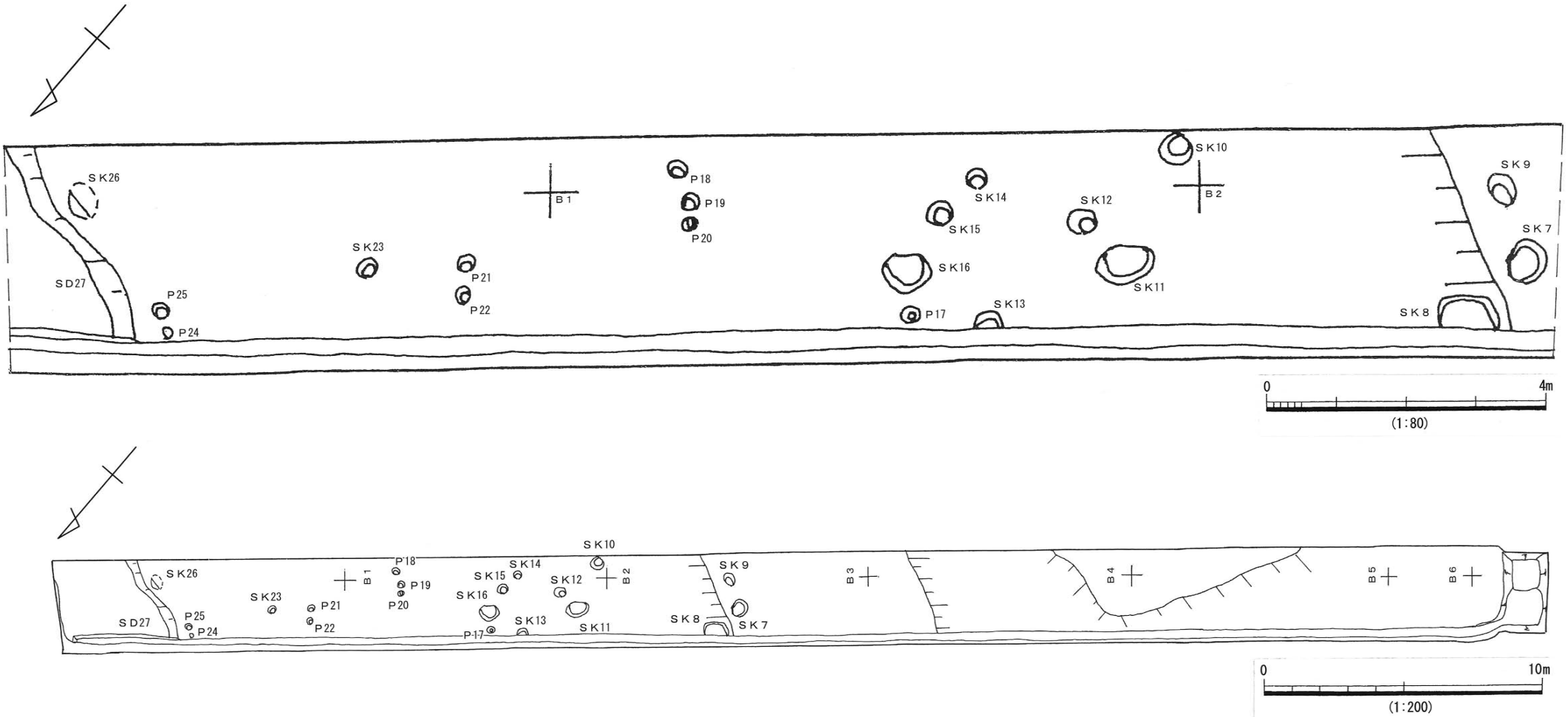
第７図　Ａ区ＳＥ49平面・断面図（1/20）



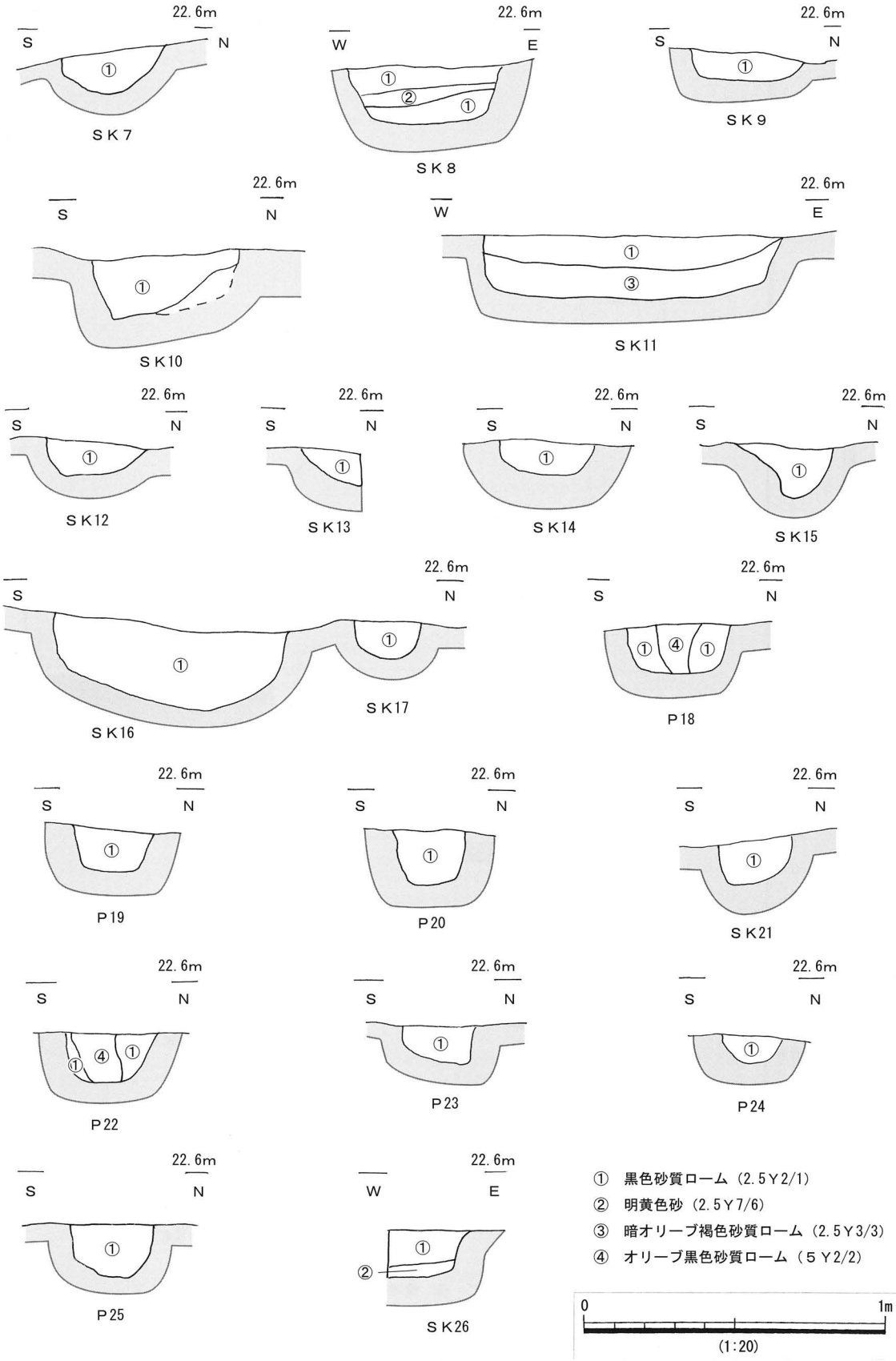
第８図　Ｂ区古代面全体図（1/200）、遺構検出範囲拡大図（1/60）



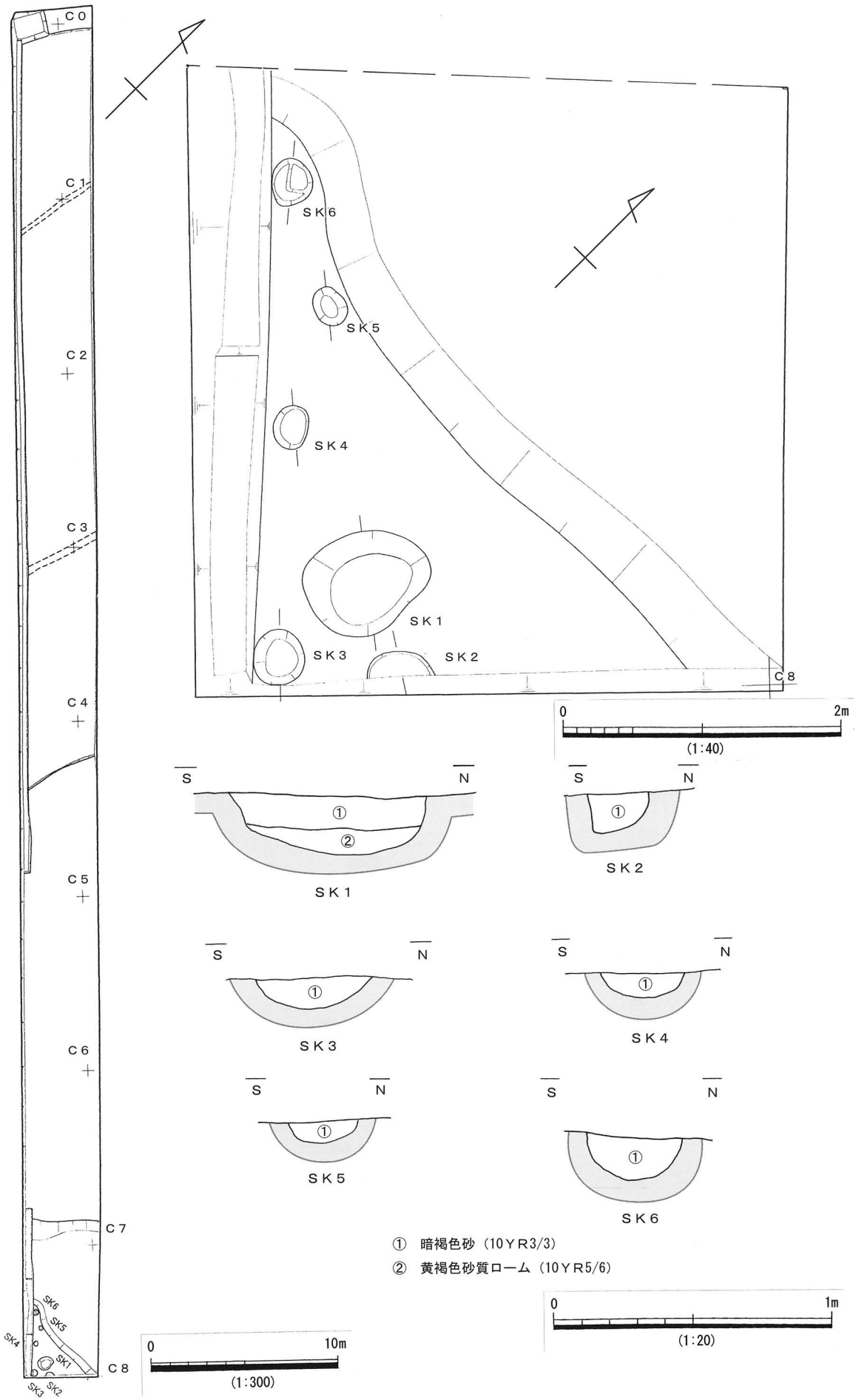
第９図　Ｂ区遺構（古代面）断面図（1/20）



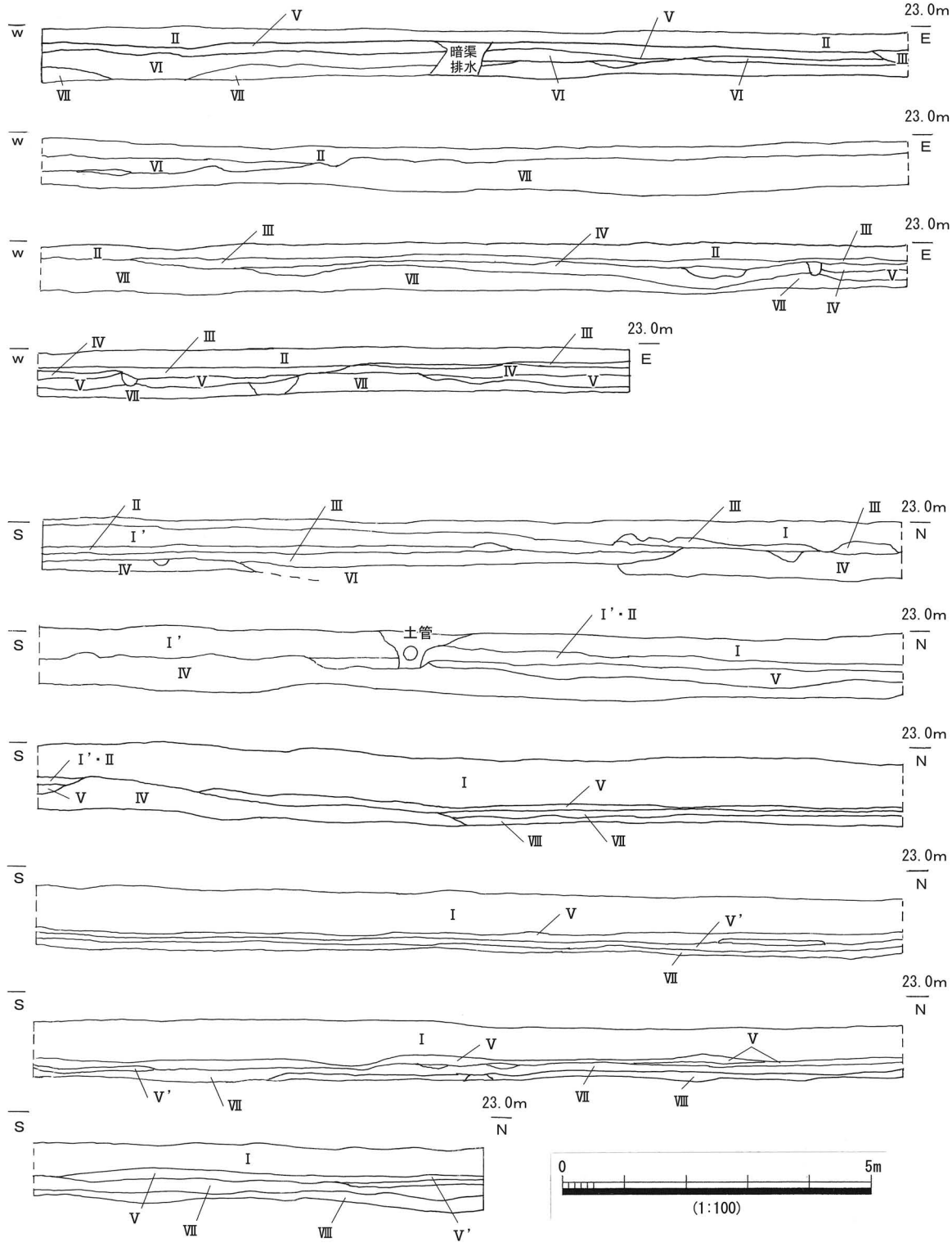
第10図　B区中世面全体図（1/200）、遺構検出範囲拡大図（1/80）



第11図　B区遺構（中世面）断面図（1/20）



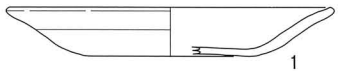
第12図　C区全体図（1/300）、遺構検出範囲拡大図（1/40）、遺構断面図（1/20）



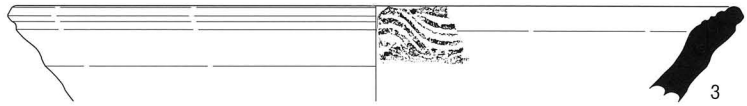
I　旧農道
I'　旧農道下礫尺
II　表土・耕作土（黒褐色砂質ローム（10YR3/1））
III　灰色シルト質ローム（５Y4/1）
IV　オリーブ黒色粘土（５Y3/1）
V　褐灰色シルト（10YR4/1）
V'　オリーブ褐色砂（2.5Y4/3）
VI　褐灰色粘土質ローム（10YR4/1）
VII　オリーブ褐色砂（2.5Y4/3）
VIII　暗灰黄色ローム（2.5Y5/2）

第13図　B区北側断面図（1/100）：上段、C区西側断面図（1/100）

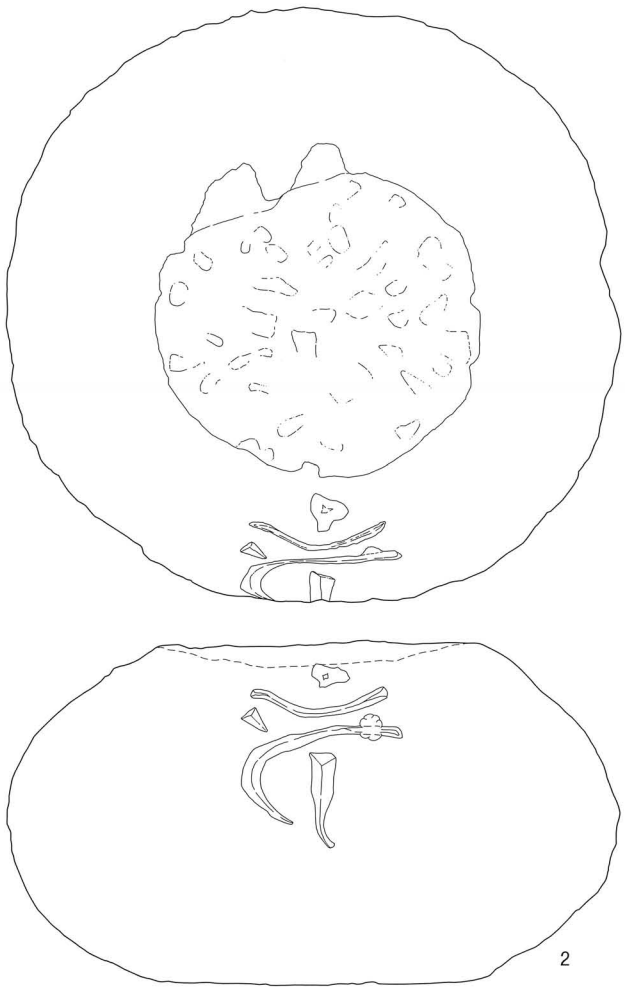
SK 45



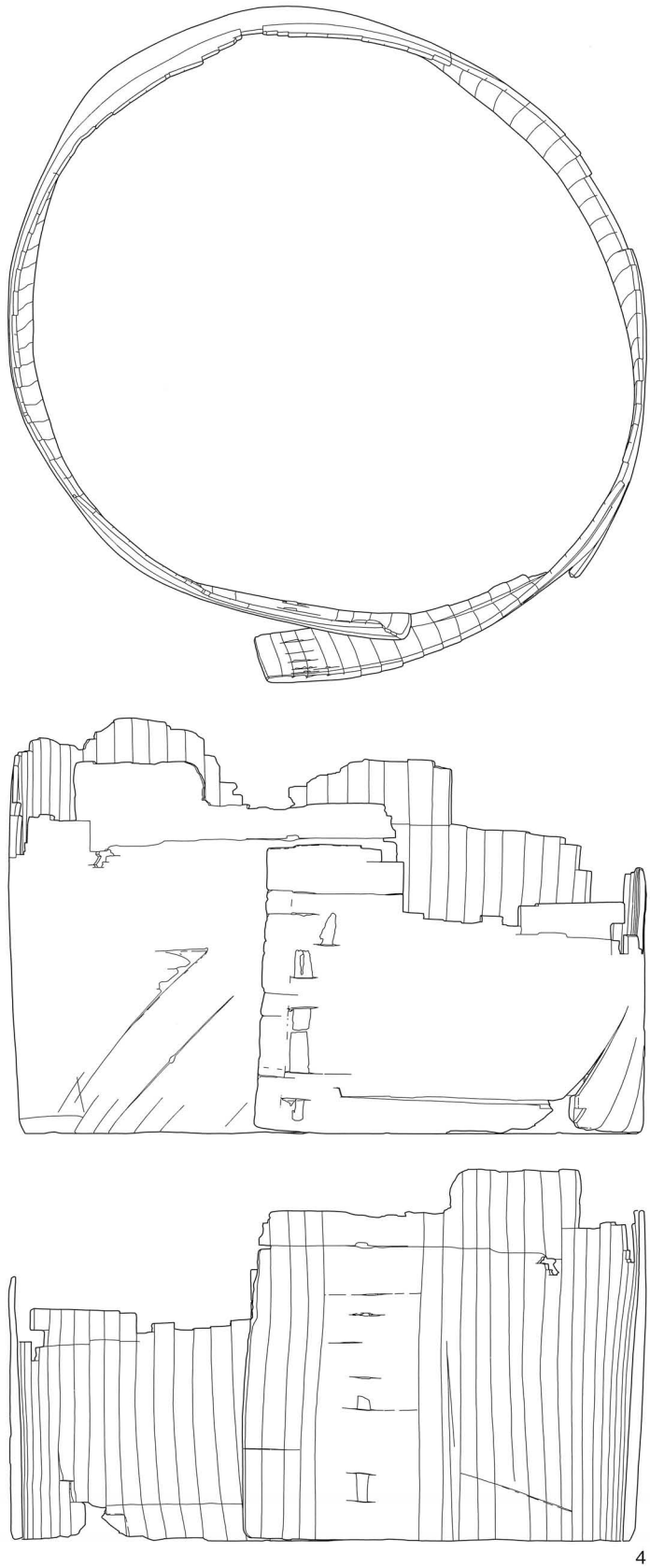
SE49



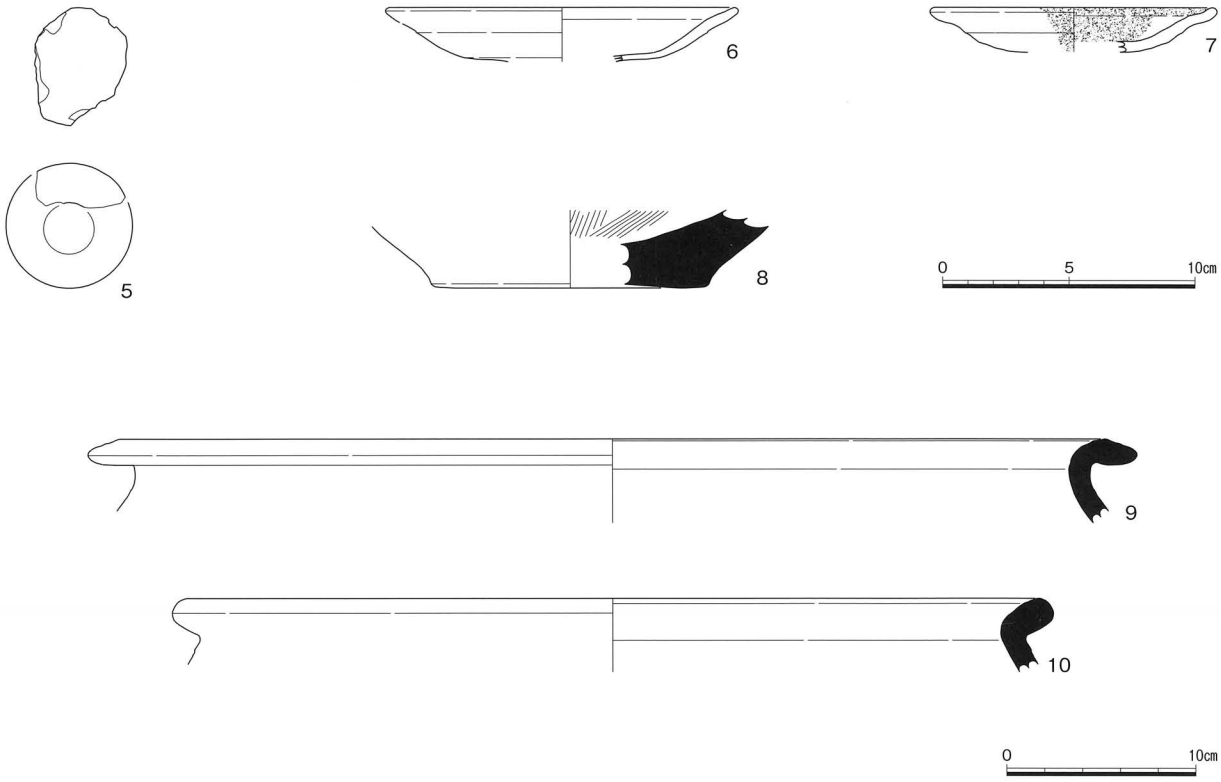
SK46



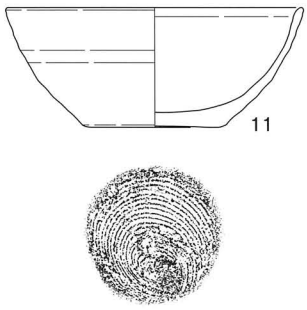
第14図　A区遺構出土遺物（1・3：1/3、2：1/4）



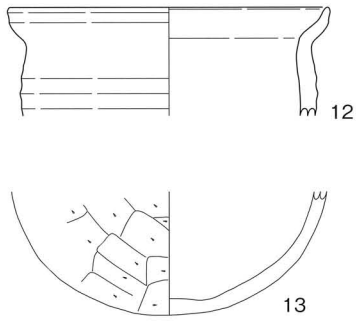
第15図　ＳＥ49 水 溜 (1/6)



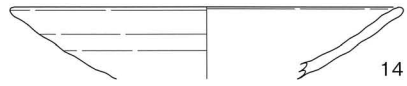
SK46



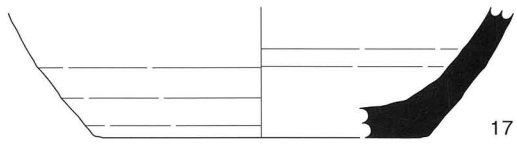
SK33



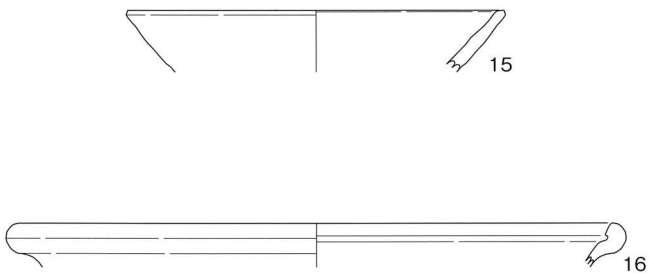
SK38



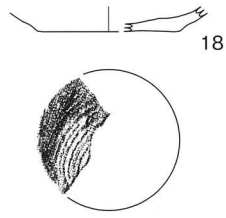
SK42



SK41

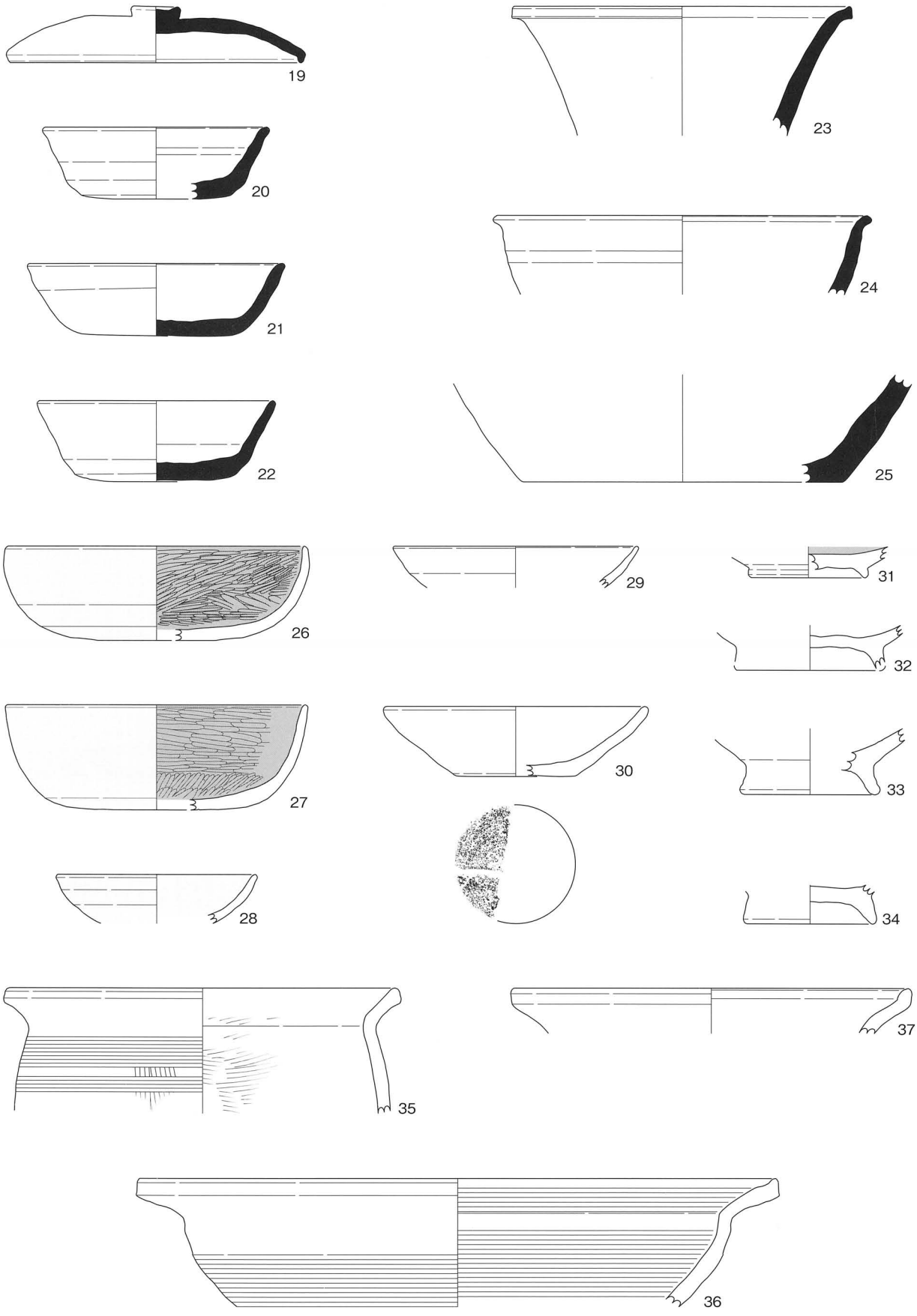


SK43

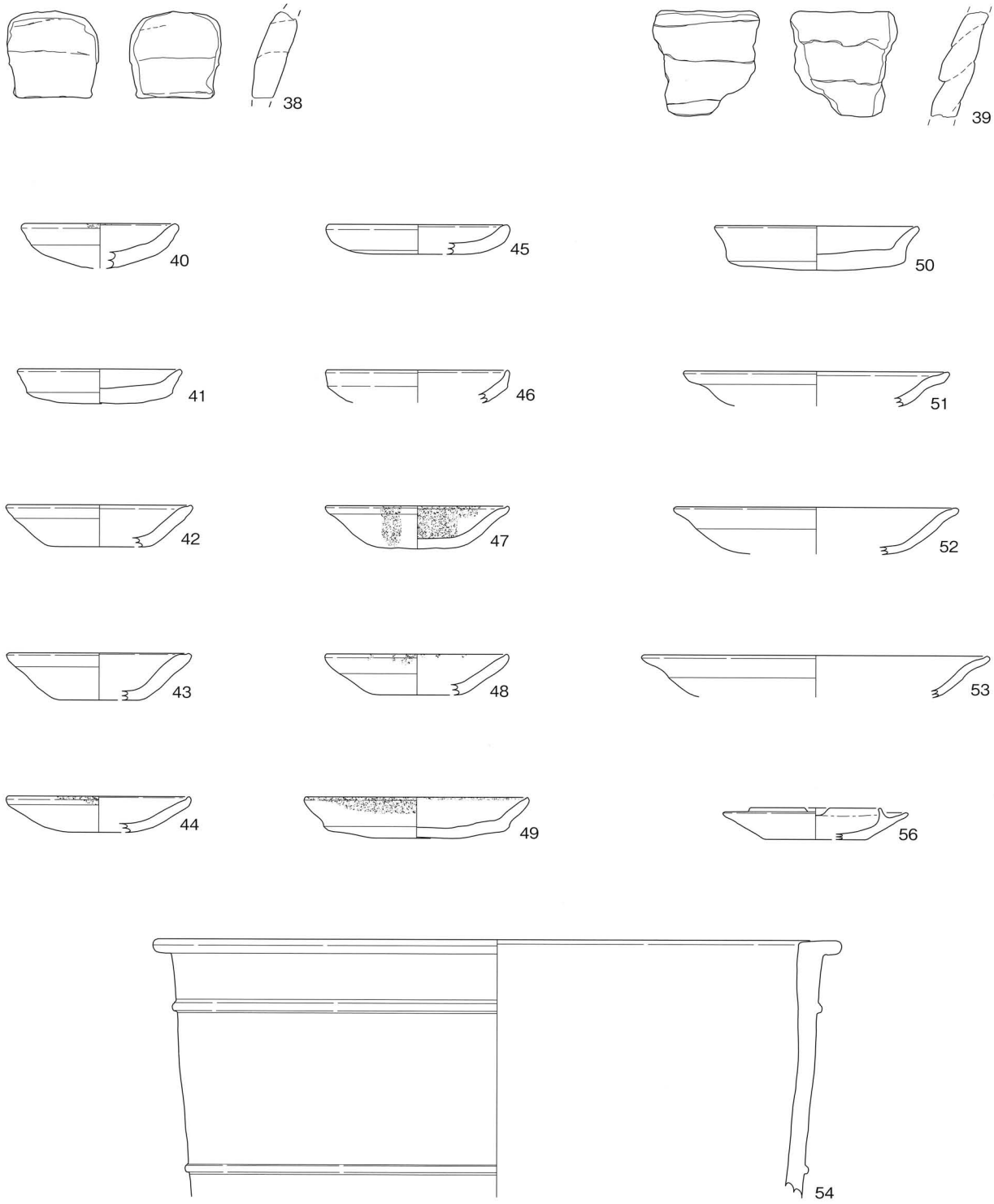


0 5 10cm

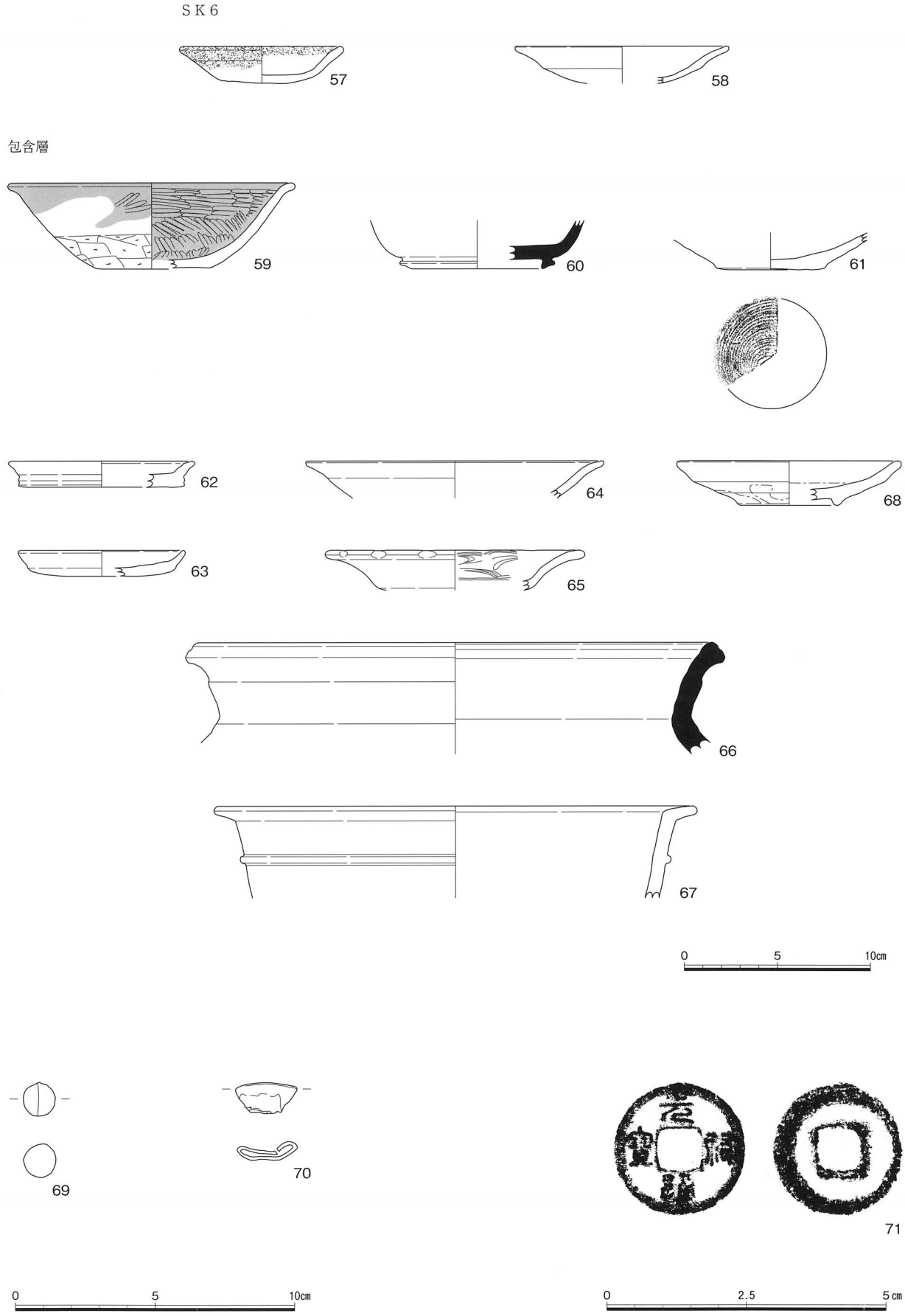
第16図　A区出土遺物（5～8：1/3、9・10：1/4）：上段、B区遺構検出遺物（1/3）：下段



第17図　B区出土遺物（1/3）



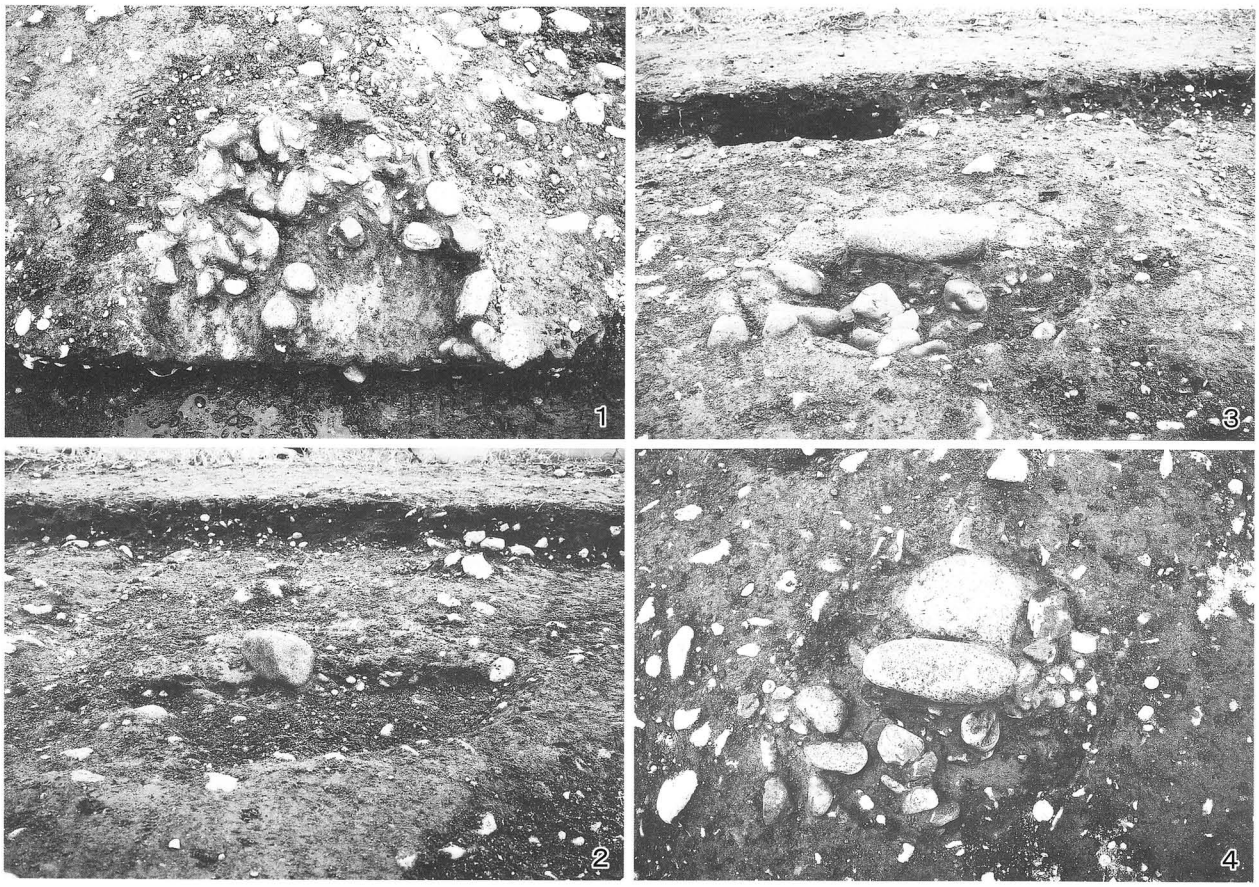
第18図　B区出土遺物（1/3）



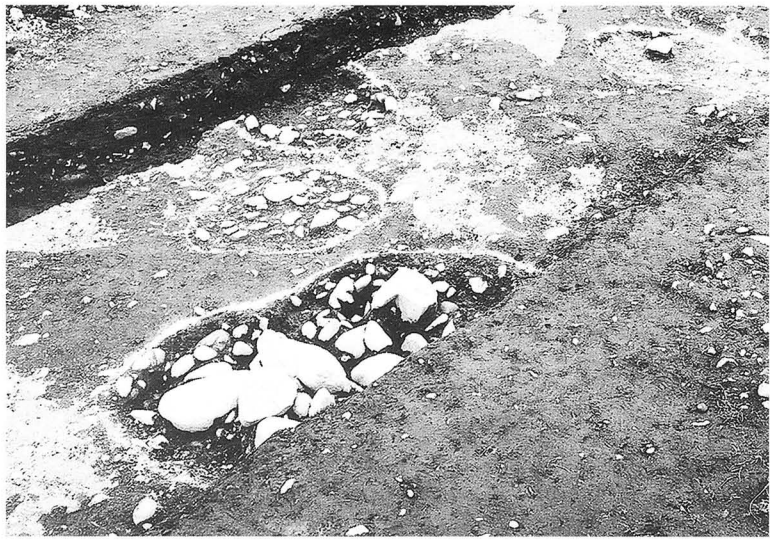
第19図　Ｃ区遺構検出遺物ほか（57～67：1/3、69・70：1/2、71：1/1）

図版１

Ａ区　調査区全景（南東より）

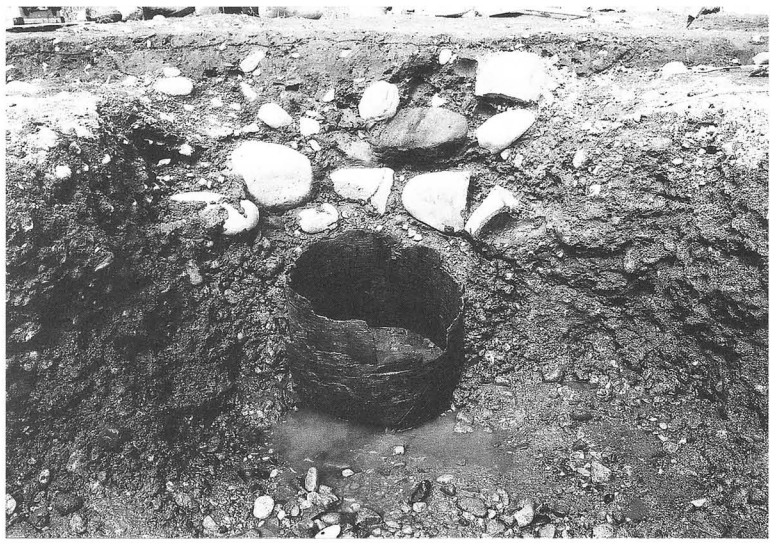


遺構・検出状況（１：ＳＫ48，２：ＳＫ47，３－４：ＳＫ46）



ＳＥ49（南東より）

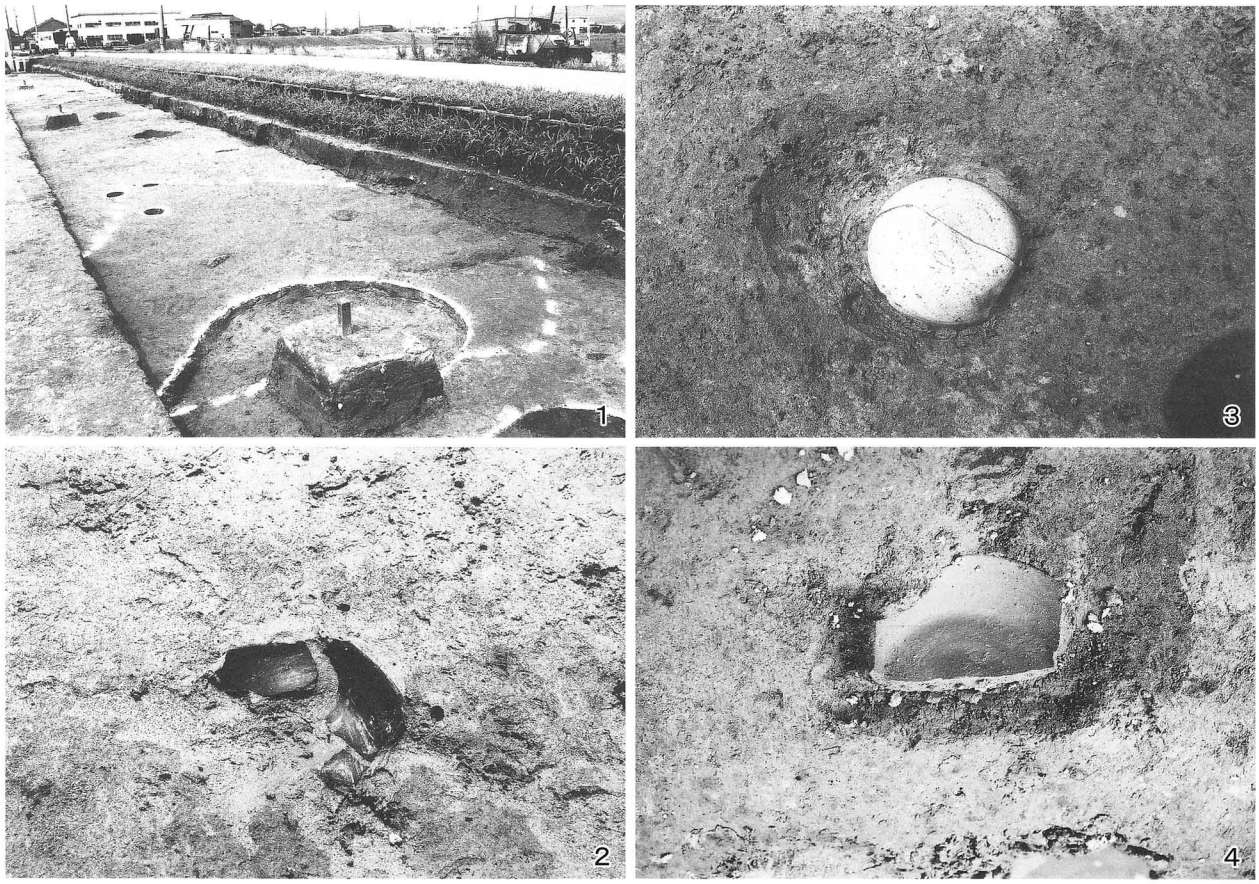
ＳＥ49上面（西より）



ＳＥ49断面（西より）

図版３

Ｂ区古代面全景（東より）

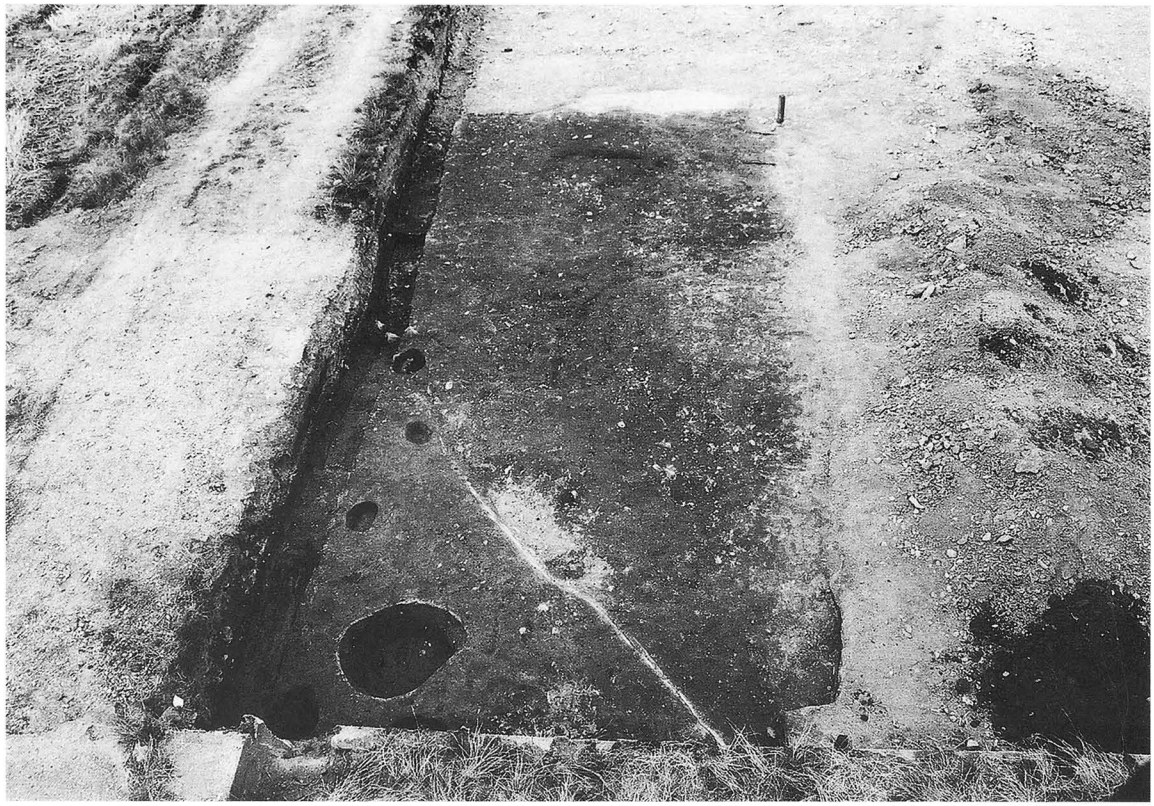


遺構・遺物検出状況（１：ＳＫ42付近、２～４：ＳＫ42付近遺物出土状況）

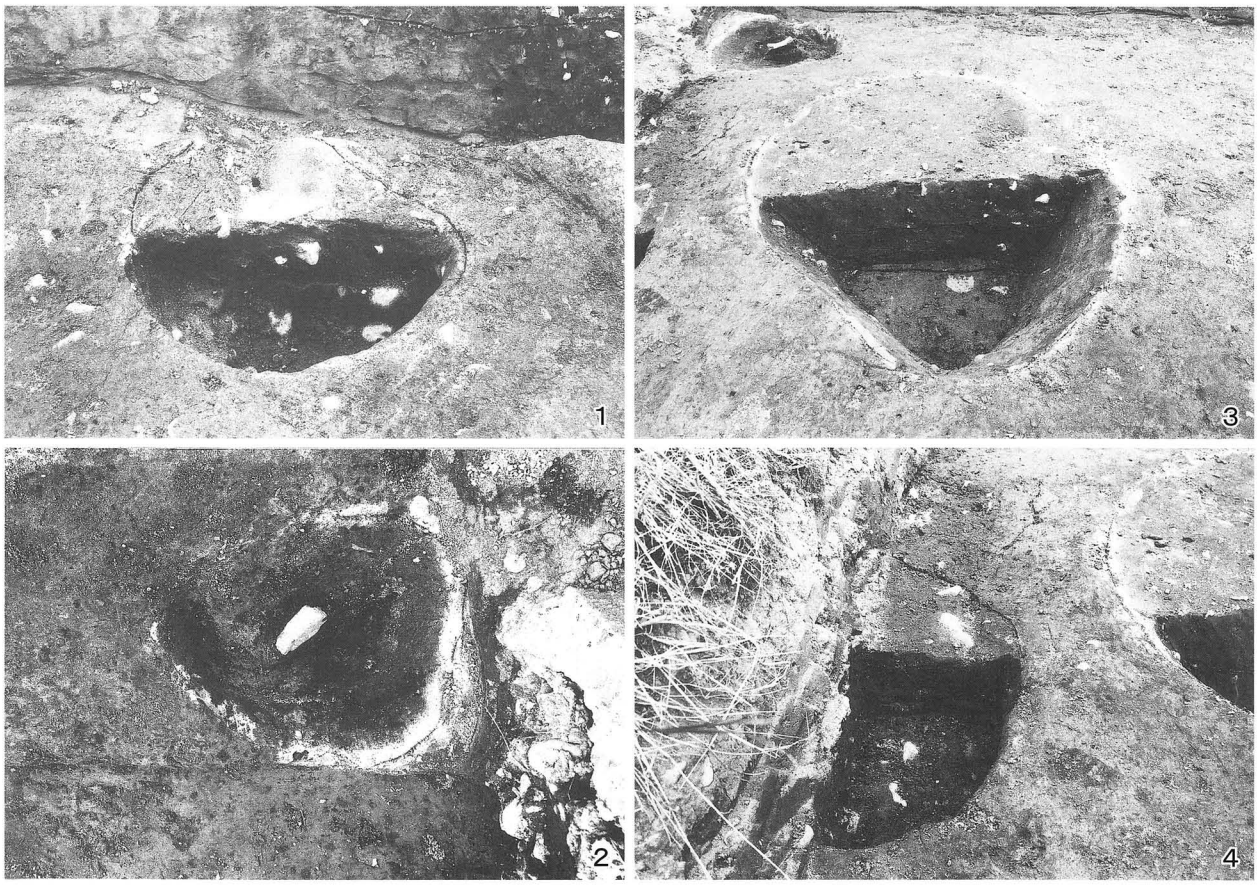
Ｂ区中世面全景（東より）

１：ＳＫ16付近遺構検出状況、２：ＳＤ27付近遺構検出状況

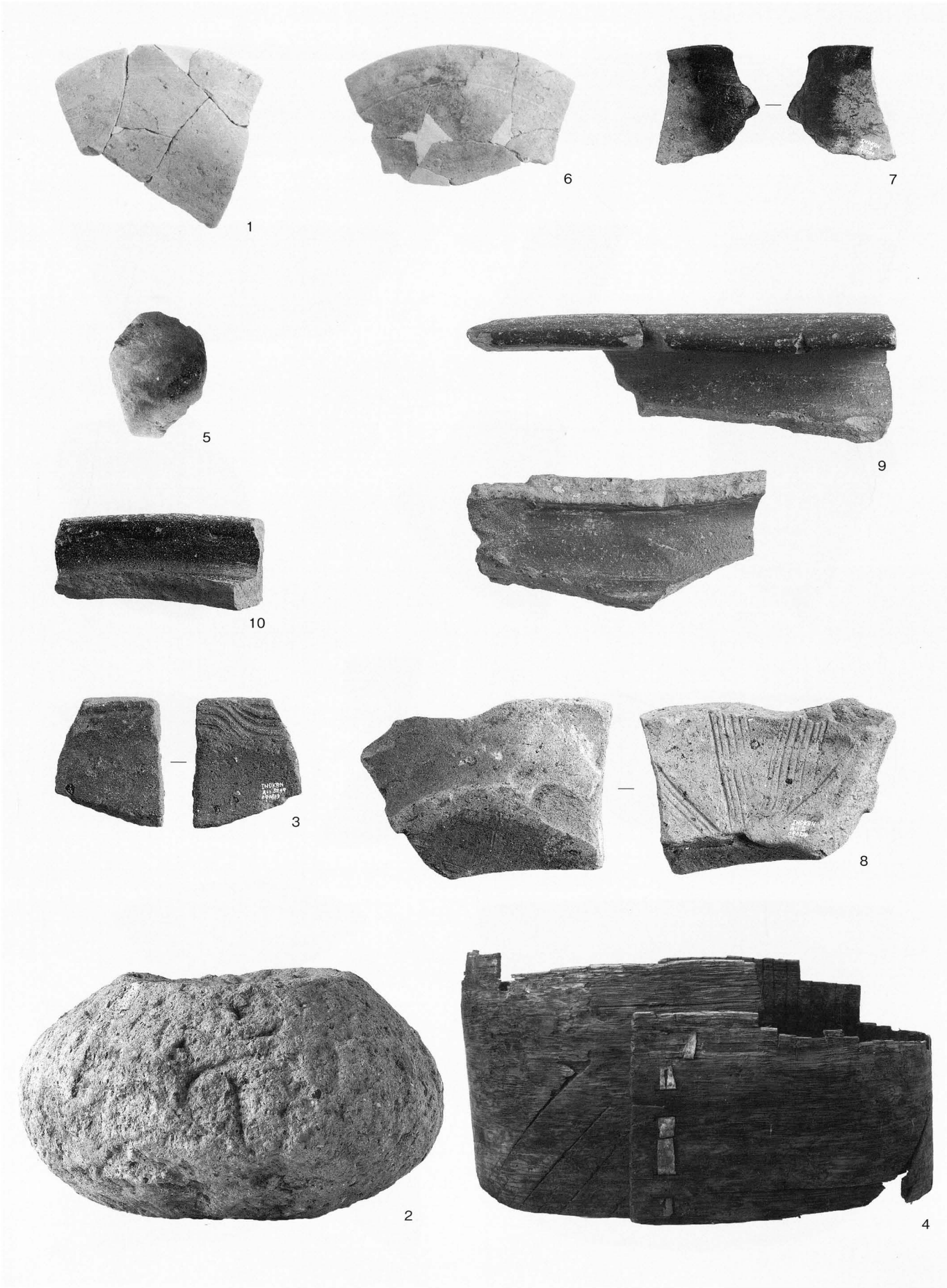
図版５



Ｃ区調査区全景（南より）

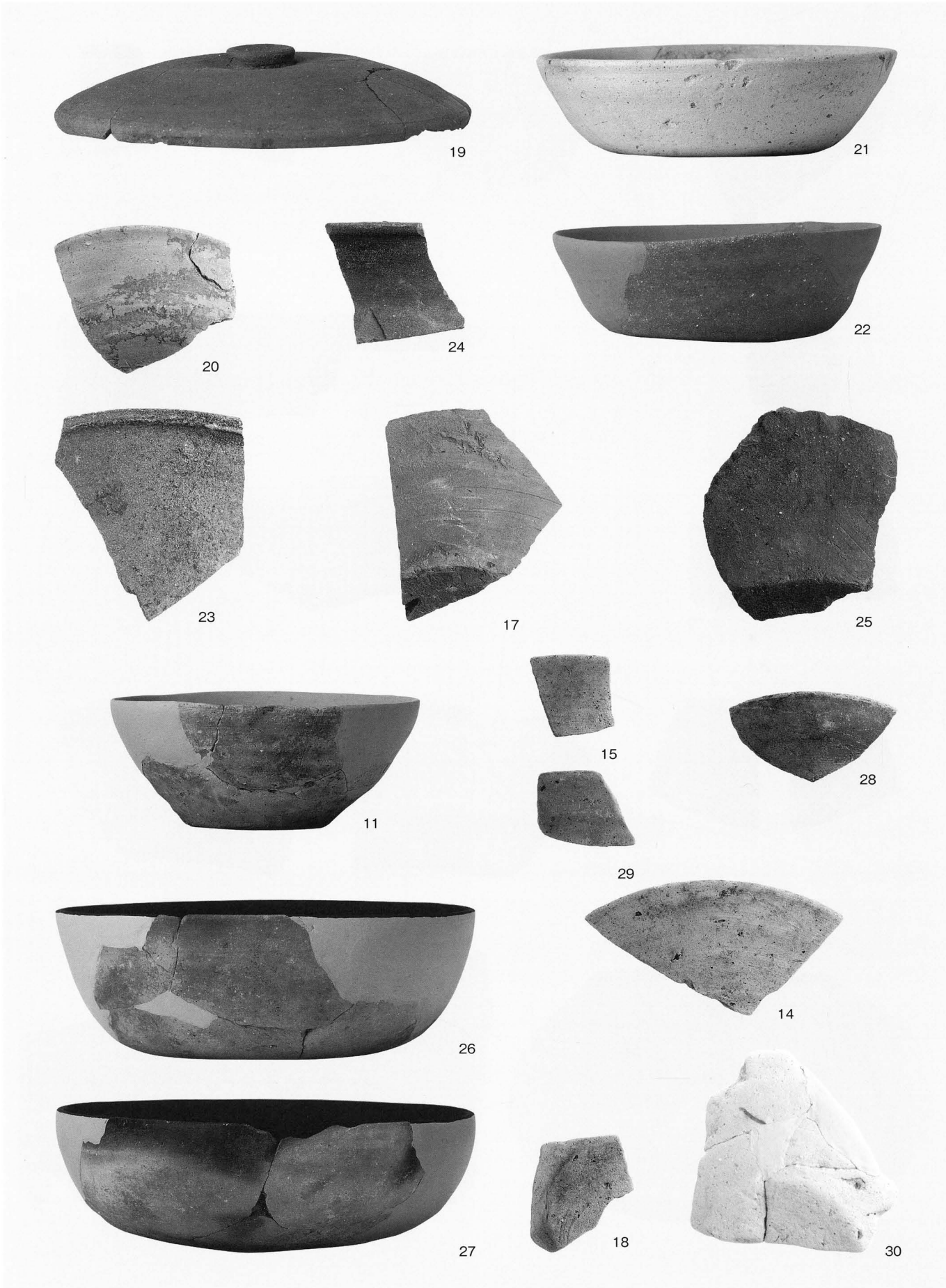


遺構検出状況（１：ＳＫ６、２：ＳＫ３、３：ＳＫ１、４：ＳＫ２）



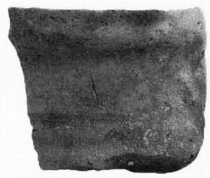
Ａ区出土遺物（１、３、５～10：1/2、２：1/4、４：1/6）

図版 7



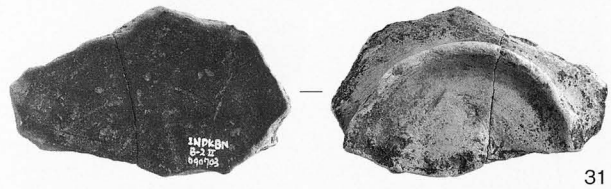
B区出土遺物（1/2）

16


12

37

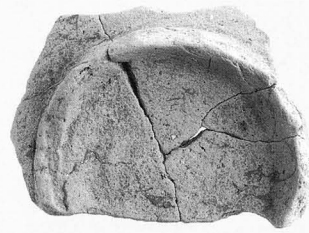
35


31

34

33

36


32

13

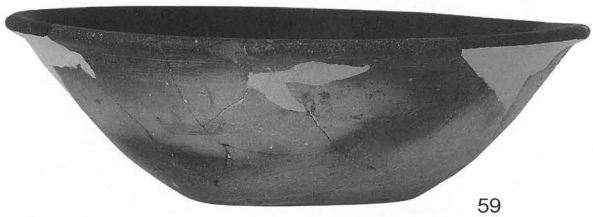
38

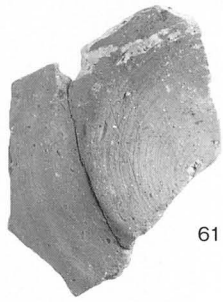
39

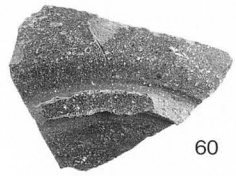
B区出土遺物（1/2）

図版９

B区出土遺物（1/2）


59


61

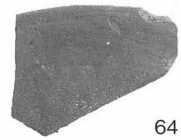

60

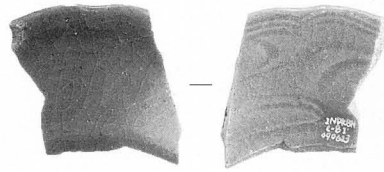
58

62

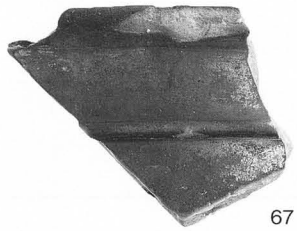
57

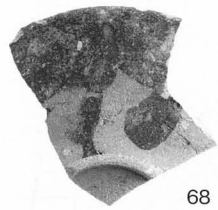
63


64


65

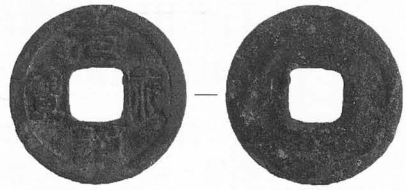
66


67


68

69

70


71

C区出土遺物（57～68：1/2、69～71：1/1）

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第66冊

富山県小矢部市

石名田木舟遺跡発掘調査報告書

－ほ場整備（経営体育成基盤整備事業）地崎地区に伴う埋蔵文化財調査－

発　行　日　平成22年3月19日
編集・発行　小矢部市教育委員会
〒932-8611　富山県小矢部市本町１番１号
TEL 0766-67-1760
印　　刷　トッププリント